

鳥取市教育委員会事務の
自己点検・評価報告書
(平成29年度事業分)

平成31年2月

鳥取市教育委員会

目次

I はじめに

1 制度の目的	1
2 点検・評価の対象	1
3 点検・評価の方法	2
4 自己点検・評価対象事業一覧	3～7

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員選任状況	8
2 教育委員会会議の開催状況	8
3 教育委員会審議案件	9～10
4 その他の活動状況	11～12

III 教育委員会の機構及び事務分掌

13～14

IV 点検・評価の結果

1 社会を生きぬく力を育む特色ある教育の推進	
(1) 自立と創造の学校づくり推進事業	[学校教育課] 16～17
(2) 小学校外国語活動人材支援事業	[学校教育課] 18～19
(3) 地域で学ぶ職場体験活動事業	[学校教育課] 20～21
2 学校・家庭・地域の連携による教育支援	
(1) 未来のとっとり教育創造事業	[学校教育課] 22～23
(2) 放課後児童対策事業	[学校教育課] 24～25
(3) 特別支援教育支援員配置事業	[学校教育課] 26～27
3 信頼される教育環境の充実	
(1) 学校維持補修事業（小学校・大規模）	[教育総務課] 28～29
(2) 学校維持補修事業（中学校・大規模）	[教育総務課] 30～31
(3) 不登校対策事業	[学校教育課] 32～33
(4) スクールソーシャルワーカー活用事業	[学校教育課] 34～35
4 ふるさと愛を育む教育の推進	
(1) 「地域の宝」研究事業	[学校教育課] 36～37
(2) 人権教育推進（携帯インターネット教育啓発推進事業）	[学校教育課] 38～39

5	生涯にわたり心豊かに学び育つことができる環境の充実		
(1)	生涯学習講座推進事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	40～41
(2)	ろうあ成人学級開設事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	42～43
(3)	子育て講座開設事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	44～45
6	歴史と文化が息づくふるさとの創生		
(1)	文化財調査事業	〔文化財課〕	46～47
(2)	美敷水源地保存整備事業	〔文化財課〕	48～49
(3)	仁風閣美装化等事業	〔文化財課〕	50～51
7	魅力ある読書環境づくりの推進		
(1)	図書館情報管理システム処理事業	〔中央図書館〕	52～53
(2)	地域社会教育活動総合事業	〔中央図書館〕	54～55
8	子どもの健全な食生活の推進		
(1)	学校給食未納対策事業	〔学校保健給食課〕	56～57
(2)	学校給食食物アレルギー対策事業	〔学校保健給食課〕	58～59
9	すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興		
(1)	市民総スポーツ運動事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	60～61
(2)	市民体育祭開催事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	62～63
(3)	体育施設管理事業	〔生涯学習・スポーツ課〕	64～65
V	学識経験者の意見（総評）		66～67

I はじめに

1 制度の目的

鳥取市教育委員会は、子どもたちが、自らの道を選び社会へはばたいていくため、ふるさとへの思いや志をもち、たくましく活躍できる人づくりを基本理念とし、学校教育の充実を図り、質を高める「知を開く」、郷土愛を醸成し豊かな心を育む「徳を啓く」、未来を創造する健やかな体を育む「体を拓く」、という3つの「ひらく」を推進しております。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています。

鳥取市教育委員会は、この法の趣旨に則し、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、平成29年度の事務事業について「教育委員会事務の自己点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。点検・評価に当たっては、学識経験を有する者によるヒアリングを受け、主要な事業の評価及び全体的な総合評価をいただきました。

《参考》 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

鳥取市では、市長部局、議会事務局、各行政委員会等を対象とした「第10次総合計画」（計画年度：平成28～32年度）に基づき、各種事務事業の行政評価を実施しています。平成23年度から内部事務システムに組み込んだ内部評価を、さらに財務会計システムと連動して本格稼働させており、平成30年度（29年度事業対象）の点検・評価に当たっては、この行政評価を活用するとともに、対象事業の中から、鳥取市教育委員会が重点的に取り組んでいる事業として25事業を抽出し、教育的観点を加えて点検・評価を実施しました。

3 点検・評価の方法

事業ごとの自己点検・評価シートに、教育委員会の自己評価を記入したうえで、学識経験者の所見をいただきました。

さらに、学識経験者からは点検・評価結果全体に対する総合評価をいただきました。

【点検・評価シートの構成】

- ① 基本情報
(総合計画の位置付け)
- ② 事業目的
(対象、意図、手段)
- ③ 事業の年度別計画・実績
- ④ 平成29年度の事務事業実施概要
- ⑤ 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標
- ⑥ 活動指標の達成率
- ⑦ 評価
- ⑧ 事業の成果を踏まえた今後の方向性
- ⑨ 学識経験者の所見

【ご意見をいただいた学識経験者】

- 鳥取大学 理事（教育・国際交流担当）・副学長 中島廣光 氏
- 公立鳥取環境大学 経営学部 副学部長・教授 石川真澄 氏

4 自己点検・評価対象事業一覧 (H29年度実績)

[鳥取市の教育等の振興に関する大綱 施策体系・事務事業一覧]

※ は点検・評価対象事業

基本方針	政策	推進施策	事業名	担当部署
I 学校教育の充実を図りその質を高めます！ 【知を開く】	(1) 社会を生きぬく力を育む特色ある教育の推進	1 鳥取市だからこそできるきめ細やかな教育を推進し、将来に対する夢・希望や志をひらき、次代を担う人材の育成に取り組みます。	1 自立と創造の学校づくり推進事業費	学校教育課
			2 小学校3～6年生における35人学級実施事業費	学校教育課
			3 遠距離通学費補助金(小学校)	学校保健給食課
			4 遠距離通学費補助金(中学校)	学校保健給食課
			5 要保護・準要保護児童就学援助費(小学校)	学校保健給食課
			6 要保護・準要保護児童就学援助費(中学校)	学校保健給食課
		2 ICTの活用、グローバル化に対応した英語教育、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた授業改革をとおして教師の指導力向上、キャリア教育の充実を図り、子ども一人ひとりが広い視野を持った主体的な学びの実現を目指します。	7 鳥取市グローバル人材育成事業費	教育総務課
			8 語学指導等外国青年招致事業費	教育センター
			9 小学校外国語活動人材支援事業費	教育センター
			10 教育センター運営事業費	教育センター
	3 子どもたちが自己の能力と可能性を最大限に高め、様々な人々と協働・協働しつつ自己実現を図り、社会の一員としての役割と責任を果たすために必要な力を育みます。	11 地域で学ぶ職場体験活動事業費	学校教育課	
	(2) 学校・家庭・地域の連携による教育支援	1 学級や学校の自治力を高めるとともに、各中学校区の特色を生かした保幼小中・小中一貫教育を推進し、地域にひらかれた教育の実現を目指します。	12 特色ある中学校区創造事業費	学校教育課
			13 未来のとっとり教育創造事業費	学校教育課
			14 少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業費	学校教育課
			15 学力向上推進事業費	学校教育課
		2 保護者が子どもの教育について第一義的責任を有することを前提としながらも、放課後児童対策など様々な機会や場を通して、子どもの健全な育成を図る地域との連携・協働体制の確立を目指します。	16 放課後児童対策事業費	学校教育課
3 特別な支援を必要とする子どもがその能力や可能性を最大限に伸ばし、社会の中で生き生きと暮らしていくため、一人ひとりのニーズに応じた教育の実現を目指します。		17 発達障害早期支援研究事業費	教育センター	
		18 特別支援教育支援員配置事業費	教育センター	

4 自己点検・評価対象事業一覧 (H29年度実績)

[鳥取市の教育等の振興に関する大綱 施策体系・事務事業一覧]

※ は点検・評価対象事業

基本方針		政策		推進施策		事業名		担当部署
I	学校教育の充実を図りその質を高めます！ 【知を開く】	(3)	信頼される教育環境の充実	1	子どもが生き生きと学び活動できる環境を整えるため、老朽化した施設の改修や、猛暑対策などの学校施設の充実を図ります。	19	学校維持補修費(小学校・大規模)	教育総務課
						20	大規模改造事業費(小学校)	教育総務課
						21	小学校増改築事業費	教育総務課
						22	学校維持補修費(中学校・大規模)	教育総務課
						23	中学校増改築事業費	教育総務課
				2	学校と地域が一体となって校区のあり方を検討することで、地域の実情に応じた活力ある学校づくりを目ざします。	24	特色ある小中9年教育支援事業費	教育総務課
						25	鹿野地域小中一貫校設立準備事業費	教育総務課
						26	不登校対策事業費	学校教育課
				3	教職員の多忙化を解消し教育の質の向上を旨としながら、学校運営システムを充実させ、学校事務の効率化と学校間の事務の共同化を図ります。	27	小規模校転入制度推進費	学校教育課
						28	学校徴収金システム事業費	教育総務課
						29	校務支援事業費	学校教育課
						30	生徒指導専任相談員事業費	学校教育課
						31	スクールソーシャルワーカー活用事業費	学校教育課
II	郷土愛を醸成し豊かな心を育みます！ 【徳を啓く】	(1)	ふるさと愛を育む教育の推進	1	本市の持つ豊かな自然、産業、歴史、芸術、文化財等の地域資源を活用し、ふるさに対する理解をひらき、“ふるさとを思い 志をもつ子”を育てます。	32	姫路市鳥取市中学生交流事業費	学校教育課
						33	郡山市鳥取市小学生交流事業費	学校教育課
				2	地域の協力を得て、子どもに、地域資源を活かした多様な体験・交流活動への参画を促しながら、達成感を味わわせ、未来に向けてたくましく生き抜く力を育てます。	34	中山間地域ふるさと体験活動支援事業費	学校教育課
						35	「地域の宝」研究事業費	学校教育課
				3	様々な学びや体験を通して、自分をとりまく人々への感謝や敬愛、命の大切さや善悪の判断などの豊かな心を育むとともに、人を大切にする人権教育の充実を図ります。	36	人権教育推進費(人権教育研究推進事業)	学校教育課
						37	人権教育推進費(いじめ防止教育推進事業)	学校教育課
38	人権教育推進費(携帯インターネット教育啓発推進事業)	学校教育課						

4 自己点検・評価対象事業一覧 (H29年度実績)

〔鳥取市の教育等の振興に関する大綱 施策体系・事務事業一覧〕

※ は点検・評価対象事業

基本方針	政策	推進施策	事業名	担当部署	
II 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます！ 【徳を啓く】	(2) 生涯にわたり心豊かに学び育つことができる環境の充実	1 市民が自発的に、自由に学ぶことのできる多様な学習機会や情報の提供の充実を図ることで、生涯学習社会の実現を目指します。	39 生涯学習推進事業費	生涯学習・スポーツ課	
			40 生涯学習講座推進事業費	生涯学習・スポーツ課	
			41 さじアストロパーク企画イベント等事業費(佐治)	生涯学習・スポーツ課	
		2 市民が学んだ成果を、地域で生かしながら自己実現を図り、生きがいに満ちた暮らしができる地域づくりに貢献します。	42 地区公民館事業費	42 地区公民館事業費	生涯学習・スポーツ課
				43 ろうあ成人学級開設費	生涯学習・スポーツ課
		3 地域の大人や子どもの保護者に自らの役割と責任の自覚を促し、人としての大切な生き方を共有して、子どもとともに“学び”“育つ”ことのできる地域社会の形成につなげます。	44 子育て講座開設費	44 子育て講座開設費	生涯学習・スポーツ課
				45 青年団体育成費補助金	生涯学習・スポーツ課
				46 成人式開催費	生涯学習・スポーツ課
				47 ものづくり道場推進事業費	生涯学習・スポーツ課
		(3) 歴史と文化が息づくふるさとの創生	1 文化芸術の振興や文化財への愛護精神の高揚を図ります。さらに、文化財の保護と活用を進めることによって次世代へ継承します。	48 史跡鳥取藩主池田家墓所管理補助金	文化財課
				49 上寺地遺跡管理事業費	文化財課
	50 文化財調査費			文化財課	
	51 青谷上寺地遺跡展示館・あおや郷土館運営管理費等			文化財課	
	2 伝統文化や歴史遺産に刻まれた先人たちの足跡に触れることで、地域への理解と絆を深め、郷土を愛する豊かな人間性を持った人材を育成します。		52 鳥取城跡保存修理事業	52 鳥取城跡保存修理事業	文化財課
				53 美敷水源地保存整備事業	文化財課
				54 歴史博物館管理費	文化財課
	3 情報発信を促進し、観光客など多くの人々が来訪する、歴史と文化の薫りに満ちた活力あるまちづくりを推進します。		55 仁風閣・宝扇庵管理	55 仁風閣・宝扇庵管理	文化財課
				56 因幡万葉歴史館管理費	文化財課
				57 文化財団運営補助金事業	文化財課
				58 仁風閣美装化等事業費	文化財課

4 自己点検・評価対象事業一覧 (H29年度実績)

[鳥取市の教育等の振興に関する大綱 施策体系・事務事業一覧]

※ は点検・評価対象事業

基本方針	政策	推進施策	事業名	担当部署	
II 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます！ 【徳を啓く】	(4) 魅力ある読書環境づくりの推進	1 年齢や障がい等に関わらず、すべての市民が読書を通して、豊かな心や夢を育み、人づくりや地域づくりを推進します。	59 図書購入費	中央図書館	
			60 コンビニ取次サービスモデル事業費	中央図書館	
			61 図書館情報管理システム処理費	中央図書館	
		2 本と人、人と人との様々な出会いの場をつくり、市民が集いにぎわい、つながり合う交流を促進し、更なる地域文化の創造を支援します。		62 地域社会教育活動総合事業費	中央図書館
		3 学校・家庭・地域・図書館の連携を図りながら、子どもの読書活動を推進し、家庭・地域の教育力の向上を図ります。		63 学校図書館活用推進事業費	学校教育課
III 未来を創造する健やかな体を育みます！ 【体を拓く】	(1) 子どもの健全な食生活の推進	1 栄養バランスのとれたおいしい給食を提供するとともに、地元食材を活用した献立を作成するなど、地産地消を推進し、子どもの心身の健康の保持増進を図ります。	64 給食配送委託費	学校保健給食課	
			65 給食調理委託費	学校保健給食課	
			66 準要保護児童・生徒給食扶助費(小学校)	学校保健給食課	
			67 準要保護児童・生徒給食扶助費(中学校)	学校保健給食課	
			68 備品整備(学校給食センター)	学校保健給食課	
			69 学校給食未納対策費	学校保健給食課	
		2 学校給食施設・設備の充実や、食物アレルギー対応を推進し、安全で安心な学校給食の提供を図ります。		70 学校給食食物アレルギー対策事業費	学校保健給食課
		3 食の大切さ、正しい食習慣等を養うとともに、学校・家庭・地域が一体となった学習・体験・交流による食育の推進を図ります。		71 研修費(学校給食)	学校保健給食課

4 自己点検・評価対象事業一覧 (H29年度実績)

[鳥取市の教育等の振興に関する大綱 施策体系・事務事業一覧]

※ は点検・評価対象事業

基本方針		政 策	推進施策	事 業 名		担当部署	
Ⅲ	未来を創造する 健やかな体を育 みます！ 【体を拓く】	(2)	1	幼児期からの運動やスポーツに親しむ機会を充実し、子どもの体力向上を図りながら、豊かな心と健やかな体を育みます。	72	ガイナール鳥取力向上事業費	生涯学習・スポーツ課
					73	市民総スポーツ運動費	生涯学習・スポーツ課
					74	子どものころづくり支援「夢の教室」事業費	生涯学習・スポーツ課
					75	市民体育祭開催費	生涯学習・スポーツ課
					76	鳥取マラソン開催費	生涯学習・スポーツ課
			2	2020年東京オリンピック・パラリンピックを好機と捉え、競技人口の増加と競技力向上に努めながら、スポーツをすることの楽しさを伝え、運動意欲の向上に取り組みます。	77	キャンプ地誘致推進事業費	生涯学習・スポーツ課
			3	年齢や障がい等に関わらず、すべての市民がいつでもスポーツに親しめるよう、各地域や各種団体のスポーツ推進人材を育成し、市民が主体的に活動できる環境の整備を図ります。	78	体育施設管理費	生涯学習・スポーツ課

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員選任状況（平成29年度）

職名	氏名	備考
教育長	尾室 高志	H30.10.1～（2期目）
教育長職務代理者	藤井 喜臣	H29.10.6～（2期目）
委員	山脇 彰子	H30.10.5～（2期目）
委員	石谷 充	H28.10.1～（2期目）
委員	畑 千鶴乃	H27.10.15～

2 教育委員会会議の開催状況

定例教育委員会	12回（毎月1回）
臨時教育委員会	4回

3 教育委員会審議案件

(1) 教育委員会規則・訓令の制定及び改廃	……	20件
(2) 条例改正及び予算の議案についての意見申出	……	11件
(3) 職員の人事に関する事	……	6件
(4) 工事請負契約の締結・変更及び財産の取得に関する事	…	2件
(5) その他	……	10件
合計	……	49件

【教育委員会審議案件一覧】

議案番号	提出(審議)日	種別	件名	担当課
第16号	H29.4.26	条例	鳥取市立学校条例の一部改正について	学校教育課
第17号	H29.4.26	条例	難病患者等に対する公の施設の施設使用料等の無償化に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	生涯学習・スポーツ課
第18号	H29.4.26	条例	難病患者等に対する公の施設の施設使用料等の無償化に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	学校教育課
第19号	H29.4.26	条例	難病患者等に対する公の施設の施設使用料等の無償化に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	文化財課
第20号	H29.4.26	人事	教職員の処分について	教育総務課
第21号	H29.5.26	予算	平成29年度鳥取市一般会計補正予算(6月補正)について	各課
第22号	H29.5.26	その他	専決処分事項の報告について	教育総務課
第23号	H29.5.26	その他	専決処分事項の報告について	教育総務課
第24号	H29.5.26	その他	専決処分事項の報告について	生涯学習・スポーツ課
第25号	H29.5.26	規則	鳥取市立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則の一部改正について	生涯学習・スポーツ課
第26号	H29.8.30	予算	平成29年度鳥取市一般会計補正予算(6月補正)について	各課
第27号	H29.8.30	条例	鳥取市体育館の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例について	生涯学習・スポーツ課
第28号	H29.8.30	条例	鳥取市公民館条例の一部を改正する条例について	生涯学習・スポーツ課
第29号	H29.8.30	規則	鳥取市立小学校、中学校及び義務教育学校における補助教材費徴収規則の制定について	学校教育課
第30号	H29.8.30	規則	鳥取市学校給食費徴収規則の制定について	学校保健給食課
第31号	H29.8.30	その他	鳥取市社会教育委員会議に対する諮問について	生涯学習・スポーツ課
第32号	H29.11.28	予算	平成29年度鳥取市一般会計補正予算(12月補正)について	各課
第33号	H29.11.28	規程(訓令)	鳥取市教育委員会事務決裁規程の一部改正について	学校教育課
第34号	H29.11.28	規程(訓令)	鳥取市教育委員会公印管守規程の一部改正について	学校教育課
第35号	H29.11.28	規程(訓令)	鳥取市立学校の歳出予算執行及び会計事務に関する規程の一部改正について	学校教育課
第36号	H29.11.28	規程(訓令)	鳥取市立小学校及び中学校職員服務規程の一部改正について	学校教育課
第37号	H29.11.28	規程(訓令)	学校主事服務規程の一部改正について	学校教育課
第38号	H29.11.28	規則	鳥取市立小学校及び中学校管理規則の一部改正について	学校教育課
第39号	H29.11.28	規則	鳥取市教育委員会事務局等組織規則の一部改正について	学校教育課
第40号	H29.11.28	規則	鳥取市立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則の一部改正について	学校教育課
第41号	H29.11.28	規則	鳥取市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	学校教育課
第42号	H29.11.28	規則	鳥取市教科等研究員設置規則の一部改正について	学校教育課
第43号	H29.11.28	規則	鳥取市教育委員会事務局等の職員の職名規則の一部改正について	学校教育課
第44号	H29.11.28	指定管理	国府町コミュニティセンターほか1施設の指定管理者の指定について	生涯学習・スポーツ課
第45号	H29.11.28	指定管理	河原町総合体育館ほか3施設の指定管理者の指定について	生涯学習・スポーツ課
第46号	H29.11.28	指定管理	気高町勤労者体育センターほか12施設の指定管理者の指定について	生涯学習・スポーツ課
第47号	H29.11.28	その他	市指定名勝 興禅寺庭園の市文化財指定の解除について	文化財課
第48号	H29.11.28	契約締結	「重要文化財旧美敷水源地水道施設保存修理工事 建築II期」の契約変更について	文化財課

議案番号	提出(審議)日	種別	件名	担当課
第49号	H29.11.28	契約締結	鳥取市立気高中学校屋内運動場耐震補強及び大規模改修事業について	教育総務課
第50号	H29.12.26	規則	鳥取市立小学校及び中学校の施設の開放に関する規則の一部改正について	生涯学習・スポーツ課
第51号	H29.12.26	その他	鳥取市いじめ防止基本方針の改定について	学校教育課
第52号	H29.12.26	人事	教職員の処分について	学校教育課
第1号	H30.1.30	予算	平成30年度鳥取市一般会計当初予算について	各課
第2号	H30.1.30	その他	財産の無償貸付けについて	教育総務課
第3号	H30.2.6	予算	平成29年度鳥取市一般会計補正予算(2月補正)について	各課
第4号	H30.2.15	人事	教職員の処分について	学校教育課
第5号	H30.2.15	人事	教職員の処分について	学校教育課
第6号	H30.3.14	規則	鳥取市立小学校、中学校及び義務教育学校管理規則の一部改正について	学校教育課
第7号	H30.3.14	人事	平成29年度末教職員人事異動内示について	学校教育課
第8号	H30.3.14	人事	教職員の処分について	学校教育課
第9号	H30.3.26	規則	鳥取市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について	中央図書館
第10号	H30.3.26	規則	鳥取市多目的スポーツ広場の設置及び管理に関する条例施行規則等の一部改正について	生涯学習・スポーツ課
第11号	H30.3.26	規則	鳥取市教育委員会事務局等組織規則の一部改正について	教育総務課
第12号	H30.3.26	規程 (訓令)	鳥取市教育委員会事務決裁規定の一部改正について	教育総務課

4 その他の活動状況

(1) 学校計画訪問

教育現場の実態や課題を把握するとともに、指導や助言を行い、適切な学校運営を支援するため、年次計画的に学校訪問を実施しており、29年度は6月から11月にかけて下記の学校を訪問し、授業（指導案、学習過程）及び学級経営等への指導をとおして、教職員の資質（授業力・教師力）の向上を図りました。

【平成29年度 学校計画訪問実施校】

小学校	美和小学校、津ノ井小学校、湖山西小学校、宮ノ下小学校、国府東小学校、福部未来学園小学校、河原第一小学校、佐治小学校、宝木小学校、瑞穂小学校、浜村小学校、高草中学校、中ノ郷中学校、福部未来学園中学校、千代南中学校、気高中学校、青谷中学校（17校）
-----	--

(2) 協議会、研修会等への出席

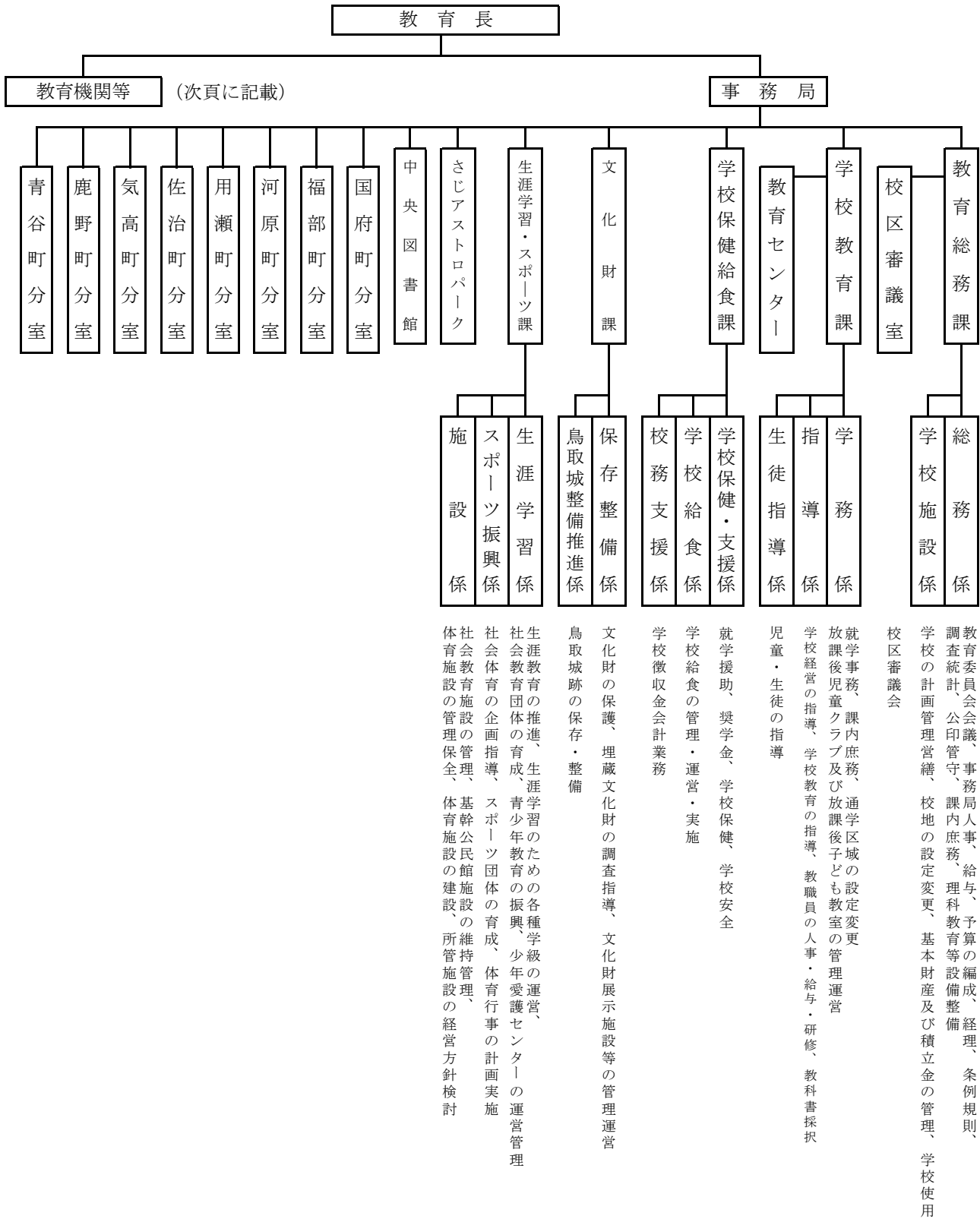
時 期	内 容
7月7日	第1回鳥取県東部地区市町教育委員会研究協議会（鳥取市） 意見交換…コミュニティースクール（学校運営協議会制度）の導入について
7月14日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会定期総会（倉吉市）
7月14日	鳥取県市町村教育委員会研究協議会研究大会（倉吉市） 研究発表 「日吉津村の教育行政」 「北栄町の学校教育」 「小さな町だからこそできることを」～子どもたちの育ちと共にある図書館～（智頭町）
8月9日	市町村教育委員会委員研修会（倉吉市） 講演 いじめ防止基本方針の見直し等について 研究分科会
2月6日	第2回鳥取県東部地区教育委員会研究協議会（八頭町） 研修…国選定重要文化的景観「智頭の林業景観」について 石谷家住宅見学 意見交換…学校における安全対策について
2月26日	教育委員研修会 青翔開智中学校視察

(3) 総合教育会議

時 期	内 容
第 1 回 (12月26日)	鳥取市立小中学校の空調設備整備について 発達障がいを含めた様々な困難を抱える子どもたちへの支援 について

Ⅲ 教育委員会の機構及び事務分掌

平成30年4月1日現在



●教育機関等施設所在地

新番号	名 称	新番号	名 称	新番号	名 称	新番号	名 称
	[市役所]	61	江山中学校	124	谷地区公民館	170	城北テニスコート
1	鳥取市役所本庁舎	62	高草中学校	125	宮下地区公民館	171	とりぎんバードスタジアム
2	市役所第2庁舎	63	湖東中学校	126	あおぼ地区公民館	172	国府町農村勤労福祉センタープール
3	市役所駅南庁舎	65	桜ヶ丘中学校	127	福部地区公民館	173	国府町運動場
4	国府町総合支所	66	中ノ郷中学校	128	河原地区公民館	174	鳥取市若葉台スポーツセンター
5	福部町総合支所	67	国府中学校	129	国英地区公民館	175	福部町ほっとスイミングプール
6	河原町総合支所	69	河原中学校	130	八上地区公民館	176	福部町グラウンド
7	用瀬町総合支所	70	千代南中学校	131	散岐地区公民館	177	福部町テニスコート
8	佐治町総合支所	72	気高中学校	132	西郷地区公民館	180	佐治町B&G海洋センター
9	気高町総合支所	74	青谷中学校	133	社地区公民館	181	佐治町多目的運動広場
10	鹿野町総合支所		[市立義務教育学校]	134	用瀬地区公民館	182	気高町B&G海洋センター
11	青谷町総合支所	32	湖南学園	135	大村地区公民館	183	気高町運動広場
	[市立小学校]	68	福部未来学園	136	佐治地区公民館	184	気高町龍見台テニスコート
12	久松小学校	54	鹿野学園(流沙川学舎)	137	宝木地区公民館	185	鹿野町B&G海洋センター
13	醇風小学校	73	鹿野学園(王舎城学舎)	138	酒津地区公民館	186	鹿野町運動広場
14	遷番小学校		[市立幼稚園]	139	瑞穂地区公民館	187	青谷町グラウンド
15	修立小学校	75	福部未来学園幼稚園	140	逢坂地区公民館	188	青谷町グラウンドゴルフ場
16	日進小学校	76	河原あゆっこ園	141	浜村地区公民館		[武 道 館]
17	富桑小学校	77	幼児センターこじか園	142	鹿野地区公民館	189	鳥取市武道館
18	稲葉山小学校		[教育センター]	143	勝谷地区公民館	190	鳥取市弓道場
19	城北小学校	78	教育センター	144	小鷲河地区公民館		福部町武道館
20	美保小学校		[中央公民館]	145	青谷地区公民館		[学校給食施設]
21	賀露小学校	79	中央公民館	146	日置地区公民館	191	第一学校給食センター
22	明德小学校		[地区公民館]	147	日置谷地区公民館	192	第二学校給食センター
23	倉田小学校	88	久松地区公民館	148	勝部地区公民館	193	湖東学校給食センター
24	面影小学校	89	遷番地区公民館	149	中郷地区公民館	194	国府学校給食センター
25	神戸小学校	90	城北地区公民館		[主なコミュニティ施設]	195	河原学校給食センター
26	美和小学校	91	浜坂地区公民館	80	国府町コミュニティセンター	197	気高学校給食センター
27	大正小学校	92	中ノ郷地区公民館	81	福部町コミュニティセンター	198	鹿野学校給食センター
28	東郷小学校	93	醇風地区公民館	82	河原町コミュニティセンター	199	青谷学校給食センター
29	明治小学校	94	修立地区公民館	83	用瀬町民会館		[主な文化観光施設]
30	世紀小学校	95	日進地区公民館	84	佐治町コミュニティセンター	200	仁風閣
31	湖山小学校	96	富桑地区公民館	85	気高町コミュニティセンター	201	鳥取世界おもちゃ館(わらべ館)
33	末恒小学校	97	明德地区公民館	87	青谷町コミュニティセンター		鳥取市歴史博物館(やまびこ館)
34	米里小学校	98	美保地区公民館		[生涯学習施設]	202	因幡万葉歴史館
35	津ノ井小学校	99	美保南地区公民館	150	鳥取市文化センター	203	河原歴史民俗資料館
36	浜坂小学校	100	稲葉山地区公民館	151	鳥取市子ども科学館	204	用瀬郷土歴史館
37	岩倉小学校	101	岩倉地区公民館	152	鳥取市福祉文化会館	205	佐治天文台(さじアストロパーク)
38	美保南小学校	102	倉田地区公民館	153	鳥取市勤労青少年ホーム	206	佐治歴史民俗資料館
39	湖山西小学校	103	面影地区公民館	154	鳥取市サイクリングターミナル砂丘の家	207	青谷上寺地遺跡展示館
40	中ノ郷小学校	104	津ノ井地区公民館	155	鳥取市視聴覚ライブラリー	208	あおや郷土館
41	若葉台小学校	105	若葉台地区公民館	213	鳥取市生涯学習センター		[図 書 館]
42	宮ノ下小学校	106	米里地区公民館		[主な体育施設]	210	鳥取市立中央図書館(市役所駅南庁舎)
43	国府東小学校	107	神戸地区公民館	156	市民体育館	211	用瀬図書館
45	河原第一小学校	108	大和地区公民館	157	福部町体育館	212	気高図書館
46	西郷小学校	109	美穂地区公民館	158	河原町総合体育館		
47	散岐小学校	110	東郷地区公民館	159	河原町勤労者体育館		
48	用瀬小学校	111	大正地区公民館	160	用瀬町勤労者体育センター		
49	佐治小学校	112	豊実地区公民館	161	気高町体育館		
50	宝木小学校	113	明治地区公民館	162	気高町勤労者体育センター		
51	瑞穂小学校	114	松保地区公民館	163	気高町農業者トレーニングセンター		
52	浜村小学校	115	湖南地区公民館	164	気高町農業者トレーニングセンター		
53	逢坂小学校	116	湖南地区公民館大郷分館	165	鹿野町農業者トレーニングセンター		
55	青谷小学校	117	末恒地区公民館	166	青谷町体育館		
	[市立中学校]	118	湖山西地区公民館		青谷町農林漁業者トレーニングセンター		
56	東中学校	119	湖山西地区公民館		[主なスポーツ施設]		
57	東中学校のぞみ分校	120	賀露地区公民館	167	市民プール		
58	西中学校	121	千代水地区公民館	168	鳥取市海洋センター		
59	南中学校	122	大茅地区公民館	169	千代テニスコート		
60	北中学校	123	成器地区公民館				

自己点検・評価の結果

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	1		
事務事業名	自立と創造の学校づくり推進事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	I 学校教育の充実を図りその質を高めます!【知を開く】	
	政策	(1) 社会を生きぬく力を育む特色ある教育の推進	
	推進施策	1. 鳥取市だからこそできるきめ細やかな教育を推進し、将来に対する夢・希望や志をひらき、次代を担う人材の育成に取り組みます。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	全小・中学校
意 図 (どのような状態 にするために)	市立小中学校が、児童生徒の実態、保護者の願いや期待、地域の特性などを踏まえ、自立して創意工夫のある学校づくりを進展させることにより、教育目標の達成を図る。
手 段 (どうするのか)	学校が企画した教育活動及び取組内容に応じて、創意や工夫・考え方を審査して予算配分する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	①実施計画に基づく 予算配分	①実施計画に基づく 予算配分	①実施計画に基づく 予算配分	①実施計画に基づく 予算配分	①実施計画に基づく 予算配分	
	年度別実績	①実施計画に基づく 予算配分 ・一律支援予算 ・特別支援予算 ・人材活用支援予算	①実施計画に基づく 予算配分 ・一律支援予算 ・特別支援予算 ・人材活用支援予算				
事 業 費	区 分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	26,441	25,020	0	0	0	
	直接経費 A	19,131	17,520	0	0	0	
	直接経 費の財 源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	19,131	17,520			
一般財源							
人件費 B	7,310	7,500					
職員数の 内 訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の 実施概要	<p>現在、地域とともにある特色ある学校づくりを実現するため、各学校の教育理念や教育方針に基づき、目標達成型の自主的・自律的な学校経営を行うことが求められている。</p> <p>この事業は、そのような学校経営を後押しするために学校長裁量の予算を拡充し、学校の創意工夫、自主的な取組に関して各学校が企画立案を行い、教育委員会が評価・査定を行った上で必要な予算を措置する。</p>
---------------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	実施学校数	校	目標	62	62	59	59	59
				実績	62	62			
	(指標の説明) 計画書に基づいて特色ある取組を実施した小中学校数								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	実施学校数	校	100%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	自主的・自立的な学校経営や、国がめざす「地域とともにある学校づくり」を後押しする事業となっている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	児童生徒や保護者、地域の実態や願いが加味された各学校の特色ある教育活動の推進に大いに役立っており、大変有効な事業である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	各学校が独自に企画立案した計画書をもとに予算配分をしており、自立と創造の学校づくりに有効に活かされている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市内全小中学校で実施し、児童生徒に還元される事業であり、公平性が確保されている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input checked="" type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	それぞれの小中学校で、児童生徒及び保護者、地域の実態や願いが加味された特色ある教育活動が推進されており、「自立と創造の学校づくり」の上で十分な成果が見られ、なくてはならない事業と言える。委託事業として今後も継続したい。	
今後の課題・方向性	本事業により、創意ある教育活動が推進されており、児童生徒の学力はもとより、それぞれの学校及び地域の実態に応じた特色ある学校づくりが進んでいる。地域からも評価が大変高い事業であり、今後は、事業内容の見直しと改善を図りつつ充実させていく方針である。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	この事業の支援を受けて各校が独自色を出すには時間がかかり、長期的な支援には定期的な事後チェックが必須である。各校が最終的にきちんと個性を出せるようなシステムを作ることが望ましい。また、各校の企画立案を評価・査定する際の透明性、公平性を担保するため、たとえば外部の人材を評価・審査に入れるなどの工夫が必要である。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	各学校ごとの事業に対して、事前・事後の評価が行われており、学校単位でのPDCAサイクルが機能している。事業全体としての状況については、担当課や事業を利用した学校からの高評価をもって単なる補助事業にとどまらない一定の水準を確保していることが伺われる。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	9	事務事業名	小学校外国語活動人材支援事業費	所属名	教育センター
-------	---	-------	-----------------	-----	--------

1. 基本情報

位基 教 育 振 興 計 画	体系区分	コード	名 称
	基本方針	1 学校教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(1) 社会を生きぬく力を育む特色ある教育の推進	
	推進施策	2. ICTの活用、グローバル化に対応した英語教育、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた授業改革をととして教師の指導力向上、キャリア教育の充実を図り、子ども一人ひとりが広い視野を持った主体的な学びの実現を旨とします。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	小学校5、6年生児童
意 図 (どのような状態にするために)	小学校外国語活動のねらいであるコミュニケーション能力の素地の育成を図る。
手 段 (どうするのか)	小学校5・6年生の外国語活動の授業において、英語力のある地域人材を活用し、1学級あたり年間12時間分の指導援助を行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	〈5・6年生対象〉 各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介したりして、5・6年生1クラスあたり12時間分の外国語活動授業において指導の援助を行う。 ※5・6年生：外国語活動（年間35時間）	〈5・6年生対象〉 各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介したりして、5・6年生1クラスあたり12時間分の外国語活動授業において指導の援助を行う。 ※5・6年生：外国語活動（年間35時間）	〈3～6年生対象〉 各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介したりして、3・4年生1クラスあたり8時間分、5・6年生1クラスあたり12時間分の外国語活動授業において指導の援助を行う。 【学習指導要領改訂：先行実施】3・4年生：外国語活動（年間35時間）、5・6年生：外国語科（年間70時間）	〈3～6年生対象〉 各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介したりして、3・4年生1クラスあたり10時間分、5・6年生1クラスあたり15時間分の外国語活動授業において指導の援助を行う。 【学習指導要領改訂：先行実施】3・4年生：外国語活動（年間35時間）、5・6年生：外国語科（年間70時間）	〈3～6年生対象〉 各学校が、自主的に地域の人材を依頼したり、鳥取市教育センターの人材バンクから紹介したりして、3・4年生1クラスあたり10時間分、5・6年生1クラスあたり15時間分の外国語活動授業において指導の援助を行う。 【学習指導要領改訂：全面実施】3・4年生：外国語活動（年間35時間）、5・6年生：外国語科（年間70時間）	
	年度別実績	・配置校：市内44校中41校（2名配置は2校） ・配置支援員数：20名 ・実施回数：1275回	・配置校：市内44校中41校（2名配置は2校） ・配置支援員数：18名 ・実施回数：1367回				
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	9,361	9,688	0	0	0	
	直接経費 A	2,051	2,188	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0			
		地方債	0	0			
		その他	0	0			
一般財源	2,051	2,188					
人件費 B	7,310	7,500					
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員	0.00	0.00				
	臨時職員	0.00	0.00				

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	小学校外国語活動のねらいであるコミュニケーション能力の素地の育成を図るために、外国語活動の授業を補助する英語力のある地域人材を活用し、小学校の外国語活動の円滑な実施と充実した外国語活動の実践を行う。
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	派遣回数	回	目標	1,608	1,551	2,744	3,360	3,360
				実績	1,275	1,367			
	(指標の説明) 支援員を外国語活動授業補助及び授業に関する打合せで学校に派遣した回数								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	派遣回数	回	79%	88%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	急速に進展する社会のグローバル化に伴い、小学校における外国語教育のさらなる充実が求められており、本事業が本市児童の英語を活用したコミュニケーション能力の素地を養うことに果たす役割は大きい。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	活用時間数は、平成26年度885回、平成27年度1192回、平成28年度1275回、平成29年度1367回と、年々増加しており、平成30年度より3～6年生に活用枠を拡大したため、今後さらに学校現場から人材支援の要請が増えていくものと思われる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	今後ますます外国語教育の充実が求められる中、英語話者である在留外国人や英語が堪能な地域人材が少ない本市の状況から考えると、行政が支援して地域人材を発掘し、学校現場に紹介する仕組みは必要である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	全小学校・義務教育学校を対象としており、支援員派遣を希望した小学校41校全てに支援員を配置している。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input checked="" type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	平成30年度から5・6年生での外国語科、3・4年生での外国語活動先行実施が始まり、学校現場からの人材支援要請に対応するため、さらに支援員の人材を確保し、外国語教育の一層の充実を図る必要がある。	
今後の課題・方向性	3・4年生での外国語活動（年間35時間）、5・6年生での外国語科（年間70時間）先行実施に伴う授業時間数増加に対応するため、外国語活動支援員の増員を図ることが必要である。さらに、外国語活動支援員の研修を行い、小学校外国語活動及び外国語科の趣旨に沿った指導力の向上を図っていくことが必要である。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	平成30年度に指導要領の改訂で3・4年生の外国語活動が始まり外国語活動の時間数が増えることから、外国語活動支援員の派遣件数が平成29年度に比べ平成30年度では倍増することが予想される。大都市部と違って、鳥取市周辺の外国語活動支援員候補者の数は限られている。若者の英語力をきちんと強化するためには、質の良い外国語活動支援員の確保が喫緊の課題である。今後、外国語活動支援員確保の具体的かつ可能の高い方法の確立が望まれる。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	小学校での外国語教育が強化されるなかで、既存の教員による対応に限界のある部分をカバーしているが、地域における人材の確保には量・質ともに限界がある。人材の発掘と研修等による育成がはかられているが、本事業を拡大し、地域に潜在する人材を活用するためにも研修・育成機能の強化が望ましい。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	11		
事務事業名	地域で学ぶ職場体験活動事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	I 学校教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(1) 社会を生きぬく力を育む特色ある教育の推進	
	推進施策	3. 子どもたちが自己の能力と可能性を最大限に高め、様々な人々と協調・協働しつつ自己実現を図り、社会の一員としての役割と責任を果たすために必要な力を育みます。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	中学校生徒
意 図 (どのような状態 にするために)	様々な社会体験活動を行う中で地域社会に学び、地域の人々と共に生きる心や感謝の心を育み、「生きる力」の基礎となる豊かな人間性や自ら課題を見つけて解決していこうとする意欲、態度を身につける。
手 段 (どうするか)	中学校2年生全員が数名ずつのグループに分かれ、地域の事業所や施設等で連続する3～5日間の体験活動を行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	①職場体験活動	①職場体験活動	①職場体験活動	①職場体験活動	①職場体験活動	
	年度別実績	①職場体験活動実施 市内全17中学校 (第2学年生徒)	①職場体験活動実施 市内全17中学校 (第2学年生徒)				
事 業 費	区 分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	9,233	9,492	0	0	0	
	直接経費 A	1,923	1,992	0	0	0	
	直接経 費の内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	1,923	1,992					
人件費 B	7,310	7,500					
職 員 数 の 内 訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の 実施概要	本事業は「鳥取市ワクワクとっとり推進協議会」に委託して実施し、中学校2年生全員が数名ずつのグループに分かれ、地域の事業所や施設等で連続する3～5日間を基本とし、体験活動を行う。
---------------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	生徒アンケートの肯定的な回答率	%	目標	80	80	80	80	80
				実績	93.5	95.1			
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	生徒アンケートの肯定的な回答率	%	117%	119%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	地域連携やキャリア教育の充実が図られている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	地元で個々にあった体験ができており、アンケートの肯定的回答率も高い。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	学校・地域や生徒の実態に合った事前・事後学習および体験活動に投入している。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市内全中学校、全生徒を対象にしている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	この事業は、中学校でのキャリア教育の充実や「ふるさとを思い 志をもつ子」の育成を目的とし、成果を上げ続けている。 また、建設・土木等の業種においては、県や各団体の担い手育成の取組の一つとなっている。	
今後の課題・方向性	キャリア教育の充実を図るために、今後も継続して実施する必要がある。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	平成29年度の生徒アンケートの肯定的な回答率が95.1%であり、現状で十分機能している事業と考える。一方で事業の生徒アンケートの肯定的な回答率の目標値として80%があげられており、目標値と現実との乖離が見受けられる。生徒側からの満足度が十分であるならば、次には受入側からの要望や評価、保護者から見た生徒の変化などを確認し、それらに基づいて改善することでよりよい事業になることが期待できる。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	各学校別の取り組みによる部分が多いが、協議会を通じたノウハウや改善情報の共有がはかられ、それを踏まえた研修委託先とのコミュニケーションも行われている。委託先の確保や生徒の希望とのマッチングなど様々な困難があると思われるが、事業の質を確保しつつ継続されることを期待したい。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	13		
事務事業名	未来のとりどり教育創造事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	1 学校教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(2) 学校・家庭・地域の連携による教育支援	
	推進施策	1. 学級や学校の自治力を高めるとともに、各中学校区の特色を生かした保幼小中・小中一貫教育を推進し、地域にひらかれた教育の実現を目指します。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域と共に歩む魅力ある学校づくり・コミュニティ・スクールの推進を進める中学校区 【3中学校区】 地域との協働による豊かな学びを推進する小・中学校 【小14校 中4校】 学びや学校生活を支える自治力の育成を推進する中学校区 【3中学校区】
意 図 (どのような状態にするために)	<ul style="list-style-type: none"> 地域創造学校（コミュニティ・スクール）構築のパイロット校となる ボランティアコーディネーターを中心とした学校支援のネットワークが構築される 小中9年間を見通した自治的な学校教育が実施される
手 段 (どうするのか)	先進実践の取り組みを推進し、広く全市にその成果を還元する

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	①先進校視察と研修視察報告会の実施 ②学校運営協議会の実施 ③授業研究会の実施	①先進校視察と研修視察報告会の実施 ②学校運営協議会の実施 ③授業研究会の実施	①先進校視察と研修視察報告会の実施 ②学校運営協議会の実施 ③授業研究会の実施	①先進校視察と研修視察報告会の実施 ②学校運営協議会の実施 ③授業研究会の実施	①先進校視察と研修視察報告会の実施 ②学校運営協議会の実施 ③授業研究会の実施	
	年度別実績	①先進校視察と研修視察報告会の実施 ②学校運営協議会の実施 ③授業研究会の実施	①先進校視察と研修視察報告会の実施 ②学校運営協議会の実施 ③授業研究会の実施				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	9,681	9,623	0	0	0	
	直接経費 A	2,371	2,123	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県		628			
		地方債					
		その他					
一般財源	2,371	1,495					
人件費 B	7,310	7,500					
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>以下の3つの研究課題について学校を指定し、組織・教育内容・指導方法について先進的実践をすすめ、研究成果を全市に還元する。</p> <p>①コミュニティ・スクールを中心とした学校運営 ②地域との協働による魅力ある学校づくり ③児童・生徒に自治力を育む教育のあり方</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	コミュニティスクールの導入校数	校	目標	10	30	45	59	59
				実績	10	30			
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	コミュニティスクールの導入校数	校	100%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	「社会に開かれた教育課程」を国も推進しており、目的は妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	各校での取り組みを参考に、他校にも取り組みが広がっており、有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	先進的に取り組むパイロット校を指定しており、効率的である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	指定校を広く全市に募っており、公平である。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	保護者や地域の方の参画による学校運営が広がり、コミュニティ・スクールを研究したり、計画したりする学校が増えている。また、学校支援ボランティアの役割についての理解が広がり、研修会等に参加する人が増えている。	
今後の課題・方向性	平成29年の法改正を踏まえ、学校のコミュニティ・スクール化のさらなる推進が必要である。また、地域学校協働活動推進員の配置も広がりつつあり、学校と地域との連携のためのコーディネーターの役割がますます重要となる。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	平成29年度の法改正によりコミュニティスクールの導入が努力義務化され、鳥取市も平成31年度には全公立学校にコミュニティスクールを導入する計画になっている。現在でも、運営協議会の在り方や、権限などが未だきちんと確立されていない部分も多い状況で、このスピード感は早すぎるように感じる。時間をかけて十分な検討と試行が必要ではないだろうか。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	コミュニティスクールへの転換は既定路線だが、時期について各学校の事情に応じた移行を進めている。その趣旨や本事業に伴う他のプログラムの成果をみるには、制度の導入にとどまらず、実際の取り組みの内容への注視が必要となると思われる。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	16		
事務事業名	放課後児童対策事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	1 学校教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(2) 学校・家庭・地域の連携による教育支援	
	推進施策	2. 保護者が子どもの教育について第一義的責任を有することを前提としながらも、放課後児童対策など様々な機会や場を通して、子どもの健全な育成を図る地域との連携・協働体制の確立を旨とします。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	小学校児童・保護者
意 図 (どのような状態 にするために)	昼間保護者が就労等のため家にいない小学校児童を授業の終了後預かり、適切な遊び及び生活の場を与えることで、児童の健全育成を図る。
手 段 (どうするのか)	小学校児童を学校の余裕教室や専用施設で預かり、遊びや集団生活の場を提供する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	①放課後児童クラブの設置・運営 ②保護者会等に運営委託	①放課後児童クラブの設置・運営 ②保護者会等に運営委託	①放課後児童クラブの設置・運営 ②保護者会等に運営委託	①放課後児童クラブの設置・運営 ②保護者会等に運営委託	①放課後児童クラブの設置・運営 ②保護者会等に運営委託	
	年度別実績	①放課後児童クラブの設置54クラブ ②保護者会等に委託し運営	①放課後児童クラブの設置56クラブ ②保護者会等に委託し運営（保護者委託51クラブ、NPO法人委託5クラブ）				
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	415,663	506,672	0	0	0	
	直接経費 A	401,043	491,672	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	249,411	282,592			
		地方債	31,600	50,100			
		その他	3	3			
一般財源	120,029	158,977					
人件費 B	14,620	15,000					
職員数の内訳	正規職員	2.00	2.00				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	全ての放課後児童クラブを委託形式とし、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に、遊び及び生活の支援を行い、児童の心身ともに健全な育成を図る。
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	児童クラブ設置数	箇所	目標	50	53	55	57	60
				実績	54	56			
	(指標の説明) 児童クラブの設置数								
	2	児童クラブ利用者数	人	目標	2,321	2,534	2,767	3,023	3,303
実績				2,288	2,428				
(指標の説明) 児童クラブの入級児童数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	児童クラブ設置数	箇所	108%	106%			
	2	児童クラブ利用者数	人	99%	96%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	市内44校区のうち、放課後子ども教室3校区を除く41校区中40校区で児童クラブを開設しており、未設置校区の開設と共に、入級児童数の増加が見込まれる児童クラブの分割等を推進していく。放課後児童クラブの需要は年々高まっており、妥当である。また、利用者数は上級生入級を視野に入れており妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	昼間保護者が就労等で家にいない小学生児童を預かり、適切な遊び及び生活の場を与えることで児童の健全育成に繋がっている。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	児童クラブの運営に必要な経費（報酬、管理費等）を一部委託料として支払っており、保護者負担金も徴収することで、児童クラブ全体運営を行っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	放課後児童クラブの必要性がある校区にはすべて開設をしており、入級児童数が増加する児童クラブは適宜分割等を行っている。また、委託料の支払いは児童クラブの規模（入級児童）に応じて算定しており、公平性は保たれている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	上級生を含めた放課後の児童預かり要望は依然多く、適切な遊び及び生活の場を与える放課後児童クラブの役割は大きい。今後入級児童の増加に伴う開設場所確保は急務であり、適宜、小学校、保護者会等と分割・拡充協議を行うことで、事業を継続していく必要がある。	
今後の課題・方向性	上級生の入級を含め、放課後児童クラブへの入級希望児童数は増加傾向にあり、既存クラブの分割等が必要となることから、開設場所の確保が急務である。今後は、未開設校区での児童クラブ開設の推進を図るとともに、入級児童が増加する既存クラブの分割・拡充に向け、小学校、保護者会と協議を行っていく。また、放課後児童クラブ支援員の確保も課題であることから、処遇改善等の取組が引き続き必要である。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	保護者が就労で家にいない小学校児童に放課後、適切な遊びと学びの場を与えるこの事業は必要である。放課後児童クラブの利用者数、クラブ数は増加傾向にあり、その運営を、保護者会等に委託している。一方で、個々のクラブが適正な人数であるのか、環境はどうか、支援員の資質は大丈夫かなどについて、鳥取市のきちんとした把握と指導は必要である。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	雇用状況が改善し、また事業の対象となる児童年齢の拡大や施設定員が縮小される中で、希望しながらサービスを受けないいわゆる待機児童の発生が十分に抑制されている。一方で、事業の対象者が拡大を続ければ同じ受益者を対象に学校と放課後児童クラブとを二重に整備する形となりかねない。事業の趣旨や費用負担の在り方が異なるため、別事業としての手当てが妥当だが、費用対効果の観点からは検討の余地が生じるのではないかと。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	18	鳥取市教育振興基本計画			
事務事業名	特別支援教育支援員配置事業	所属名	学校教育課	鳥取市教育センター	

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称	
	基本方針	1 学校教育の充実を図りその質を高めます!【知を開く】		
	政策	(2) 学校・家庭・地域の連携による教育支援		
	推進施策	3. 特別な支援を必要とする子どもがその能力や可能性を最大限に伸ばし、社会の中で生き生きと暮らしていくため、一人ひとりのニーズに応じた教育の実現を目指します。		

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	発達障がいなど教育上の特別な配慮を要する児童生徒が在籍する学校
意 図 (どのような状態 にするために)	発達障がいなど教育上の特別な配慮を要する児童生徒が在籍する学級の円滑な運営と当該要支援児童生徒の学習活動を支援するため
手 段 (どうするのか)	特別支援教育支援員を配置する

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	特別支援教育支援員配置を希望する学校52校全てに配置する。	特別支援教育支援員配置を希望する学校56校全てに配置する。	特別支援教育支援員配置を希望する学校58校全てに配置する。学校規模を鑑み、複数配置の考慮する。	特別支援教育支援員配置を希望する学校58校全てに配置する。学校規模を鑑み、複数配置の考慮する。	特別支援教育支援員配置を希望する学校58校全てに配置する。学校規模を鑑み、複数配置の考慮する。	
	年度別実績	特別支援教育支援員配置を希望する学校52校中44校に46名配置した。	特別支援教育支援員配置を希望する学校56校に59名配置した。学校規模を鑑み、複数配置も3校行うことができた。				
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	53,535	81,897	0	0	0	
	直接経費 A	53,535	81,897	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	0				
		地方債	0				
		その他	0				
一般財源	53,535	81,897					
人件費 B	0	0					
職員数の内訳	正規職員	0.00	0.00				
	嘱託職員	0.00	0.00				
	臨時職員	46.00	59.00				

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	発達障がいなど教育上の特別な支援を必要とする児童生徒に対する基本的な生活習慣の確立、学習支援、健康・安全確保等を行うため、特別な支援を必要とする児童生徒が在籍する学校に、特別支援教育支援員を配置する。
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	支援員配置校	校	目標	52	56	58	58	58
				実績	44	56			
	(指標の説明) 特別支援教育支援員の配置校								
	2	支援員配置人数	人	目標	52	56	58	58	58
実績				46	59				
(指標の説明) 特別支援教育支援員配置人数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	支援員配置校	校	85%	100%			
	2	支援員配置人数	人	88%	105%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	特別な支援を必要とする児童生徒が増加する中、特別支援教育支援員を配置することで、早期に適切な支援を行うことができ、学級の円滑な運営につながっている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	希望する56校に配置することができたとともに、学校規模に応じた複数配置を3校行うことができたことで、個に応じた学習支援を行うことができた。早期に適切な支援を行うことができるため、落ち着いて学習に取り組むことができた。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	複数配置校が3校となったが、特別な支援を必要とする児童生徒が複数在籍する学級も少なくなく、現在の人的配置では支援が十分に行えない学校もある。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input checked="" type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	学校規模や特別な支援を必要とする児童生徒の在籍者数を勘案して、特別支援教育支援員の複数配置は十分ではない。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	配置希望校への配置は進んできたが、人材確保と専門性向上の必要性が高い。また、学校規模や特別な支援を必要とする児童生徒の在籍者数を勘案した複数配置の在り方を十分検討していく必要がある。	
今後の課題・方向性	学校からの要望が高く、配置の効果も高いため、数値目標を定めながら、可能な限り配置率の向上や複数配置のための人材確保を目指す必要がある。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	発達障がいのある生徒は近年増加しており、支援員による彼等へのケアは、教員の負担を軽減し一般の生徒の学習環境を維持する上で必要である。支援員には教員免許や公認心理師などの特別な資格は必要がなく、研修を受けることだけが必要とされる。しかし支援員は教育現場で発達障がいのある生徒をケアすることになるので、しっかりした人材、経験や知識のある人材を確保することが必要である。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	必要な数の支援員が確保され、またその質を確保するための研修についても配慮されている。現状は各学校の要望に応える形で進められているが、今後は量的な側面を超えて、支援員の業務の実態についても視野に入れた評価となることを期待したい。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	19		
事務事業名	学校維持補修費（小学校・大規模）	所属名	教育総務課学校施設係

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	I 学校教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(3) 信頼される教育環境の充実	
	推進施策	1. 鳥取市だからこそできるきめ細やかな教育を推進し、将来に対する夢・希望や志をひらき、次代を担う人材の育成に取り組みます。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	小学校施設
意図 (どのような状態にするために)	機能回復及び施設の劣化防止
手段 (どうするのか)	継続的に修繕等を行う

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	トイレ改修工事 設備改修工事 小学校空調更新	小学校空調更新 体育館部分改修工事	トイレ改修工事 プール改修工事 小学校空調更新 体育館部分改修工事 設備改修工事	トイレ改修工事 プール改修工事 小学校空調更新 体育館部分改修工事	プール改修工事 小学校空調更新 体育館部分改修工事	
	年度別実績	浜坂小学校トイレ改修工事、美保南小学校消火配管改修工事、小学校空調更新	美保小学校屋内運動場床改修工事、小学校空調賃貸借、浜村小学校プール改修実施設計、大正小学校設備改修実施設計				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	75,789	52,981	0	0	0	
	直接経費 A	74,327	51,481	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債	69,200	48,700			
		その他					
一般財源	5,127	2,781					
人件費 B	1,462	1,500					
職員数の内訳	正規職員	0.20	0.20				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	美保小学校屋内運動場床改修事業 35,502千円 富桑小学校トイレ改修実施設計 2,666千円 浜村小学校プール改修実施設計 4,515千円 大正小学校設備改修実施設計 3,057千円 久松小学校プール付属棟改築実施設計 3,503千円 美保南小学校受水槽他改修実施設計 2,238千円
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	小学校改修数	校	目標	4	5	6	6	5
				実績	4	6			
	(指標の説明)								
	2		目標						
		実績							
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	小学校改修数	校	100%	120%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	学校施設の緊急度を考慮して、必要な整備を実施している。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	学校施設の緊急度を考慮して、必要な整備を実施している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	年次の整備計画を立て、急がれるものから必要な整備を実施。交付金・起債など、有利な財源確保を行っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	年次の整備計画を立て、急がれるものから必要な整備を実施。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	計画どおり事業進捗が図れた。	
今後の課題・方向性	適切な教育環境の確保を図るため、引き続き劣化防止策を積極的に実施する必要がある。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	施設の劣化に応じて年次の整備計画をたて順次やっていく改修工事に加え、大雪や台風、大雨、地震などによる突発的な災害への対応工事も含まれることから、事業実施や予算確保の難しさが分かる。しかしながら児童にとって安全安心な教育環境を提供することは最重要事項であり、予算をしっかりと確保して、もう少し改修工事実施のペースを上げるべきだと考える。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	大規模な施設の整備・改修については中長期的な整備計画に沿って実施されている。空調の整備推進など国等の施策の変化や計画外の状況に対しても柔軟な対応がとられている。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	22	事務事業名	学校維持補修費（中学校・大規模）	所属名	教育総務課学校施設係
-------	----	-------	------------------	-----	------------

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	I 学校教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(3) 信頼される教育環境の充実	
	推進施策	1. 鳥取市だからこそできるきめ細やかな教育を推進し、将来に対する夢・希望や志をひらき、次代を担う人材の育成に取り組みます。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	中学校施設
意 図 (どのような状態 にするために)	機能回復及び施設の劣化防止
手 段 (どうするのか)	継続的に修繕等を行う

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	空調設備設置工事	体育館部分改修工事	空調設備設置工事	校舎部分改修工事	トイレ改修工事	
	年度別実績	空調設備設置工事（国府中、江山中、高草中）	中ノ郷中屋内運動場屋根改修、空調設備工事（中ノ郷中）、鹿野中学校屋上等修繕				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	144,876	37,842	0	0	0	
	直接経費 A	143,414	36,342	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債	136,200	26,800			
		その他					
	一般財源	7,214	9,542				
	人件費 B	1,462	1,500				
職員数の内訳	正規職員	0.20	0.20				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	中ノ郷中学校屋内運動場屋根改修事業、空調設備設置工事（中ノ郷中学校）、鹿野中学校屋上等修繕	
	平成29年度	
	中ノ郷中学校屋内運動場屋根改修工事	23,075千円
	中ノ郷中学校空調設備設置実施設計業務	4,806千円
	鹿野中学校校舎屋上等修繕	6,210千円
	事務費等	2,251千円
	計	36,342千円

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	中学校改修数	校	目標	3	1	1	1	1
				実績	3	1			
	(指標の説明)								
	2		目標						
		実績							
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	中学校改修数	校	100%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	学校施設の緊急度を考慮して、必要な整備を実施している。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	学校施設の緊急度を考慮して、必要な整備を実施している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	年次の整備計画を立て、急がれるものから必要な整備を実施。交付金・起債など、有利な財源確保を行っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	年次の整備計画を立て、急がれるものから必要な整備を実施。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	計画どおり事業進捗が図れた。	
今後の課題・方向性	適切な教育環境の確保を図るため、引き続き劣化防止策を積極的に実施する必要がある。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	平成29年度から平成32年度まで毎年中学校1校の改修を活動目標としているが、施設の老朽化の現状を考慮するともっとペースを上げて進めても良いように思う。生徒にとって安全安心な教育環境を維持するために予算の確保も含めて適切に対応して欲しい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	大規模な施設の整備・改修については中長期的な整備計画に沿って実施されている。空調の整備推進など国等の施策の変化や計画外の状況に対しても柔軟な対応がとられている。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	26	事務事業名	不登校対策事業費	所属名	学校教育課
-------	----	-------	----------	-----	-------

1. 基本情報

位基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	1 学校教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(2) 学校・家庭・地域の連携による教育支援	
	推進施策	1. 学級や学校の自治力を高めるとともに、各中学校区の特色を生かした保幼小中・小中一貫教育を推進し、地域にひらかれた教育の実現を旨とします。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	鳥取市立小・中学校及びその児童・生徒
意 図 (どのような状態にするために)	鳥取市立小・中学校の児童生徒における学校不適応傾向の解消及び未然防止
手 段 (どうするのか)	鳥取市学校不適応対策専門委員会で不適応対策について総括的に討議し、学校不適応の未然防止と課題解消を推進する。特に地域を含めた中学校区の学校の連携を強め、小中の連続性のある不適応対策、児童生徒支援を行っていく。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	①学校不適応対策専門委員会の開催 ②中学校区・校内不適応対策委員会の実施 ③スーパーバイザーでの指導助言	①学校不適応対策専門委員会の開催 ②中学校区・校内不適応対策委員会の実施 ③スーパーバイザーでの指導助言	①学校不適応対策専門委員会の開催 ②中学校区・校内不適応対策委員会の実施 ③スーパーバイザーでの指導助言	①学校不適応対策専門委員会の開催 ②中学校区・校内不適応対策委員会の実施 ③スーパーバイザーでの指導助言	①学校不適応対策専門委員会の開催 ②中学校区・校内不適応対策委員会の実施 ③スーパーバイザーでの指導助言	
	年度別実績	①学校不適応対策専門委員会を年3回実施し、市の不適応対策について検討した。②③各中学校区においてスーパーバイザーを計22回招聘し、不適応対策委員会を実施し、不適応の解消や教職員の力量の向上を図った。	①学校不適応対策専門委員会を年3回実施し、市の不適応対策について検討した。②③各中学校区においてスーパーバイザーを計20回招聘し、不適応対策委員会を実施し、不適応の解消や教職員の力量の向上を図った。				
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	7,765	7,934	0	0	0	
	直接経費 A	455	434	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	455	434					
人件費 B	7,310	7,500					
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	学校不適応の専門家や地域協力員の活用により、学校不適応の解消に向けた取り組みを行う。 ①学校不適応対策専門委員会、地域協力員の会、学校代表の会を行い、対策事業を推進する。 ②学校不適応対策専門委員会の委員を各学校に派遣し、助言や支援を行う。
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	学校不適応対策専門委員会の実施回数	回	目標	3	3	3	3	3
				実績	3	3			
	(指標の説明) 学校不適応対策専門委員会の実施回数								
	2	スーパーバイザーによる助言指導回数	回	目標	17	17	17	17	17
実績				22	20				
(指標の説明) スーパーバイザーが、学校・中学校区へ助言指導した回数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	学校不適応対策専門委員会の実施回数	回	100%	100%			
	2	スーパーバイザーによる助言指導回数	回	129%	118%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	鳥取市学校不適応対策専門委員会で不適応対策について総括的に討議し、学校不適応の未然防止と課題解消を推進する。特に地域を含めた中学校区の学校の連携を強め、小中の連続性のある不適応対策、児童生徒支援を行っていくことに繋がる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	学校不適応対策専門委員会の開催や中学校区・校内不適応対策委員会の実施、スーパーバイザーでの指導助言等は、本市の不登校対策に繋がっており、大変有効な事業である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	不適応対策の未然防止と早期対応を推進する上でも、専門委員会の実施や学校へ助言指導する仕組みは必要である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市内全中学校区を対象に助言指導を行っている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	学校不適応の解消は、本市の重要課題でもあり、学校と地域、関係専門機関が連携して、学校不適応の解消に当たっている。今後、関係専門機関との早期連携、未然防止、早期対応のための情報共有の体制づくり等を充実・強化しながら、学校不適応対策をより進めていく必要を感じている。	
今後の課題・方向性	不登校の背景も年々複雑になり、不登校児童生徒の出現率は依然高い状況にある。今後も不適応対策委員による方針のもとに、各校や中学校区において、未然防止と早期対応を進めるとともに、各専門機関との連携を強化し不登校の解消に当たっていく。また、個別の事案に対して専門家を交えた支援会議を行うなどスーパーバイザー等の一層の活用を図り、不登校の改善をめざしていく。本市教育の重要課題である学校不適応の解消のためにも本事業の拡充が必要であると考えている。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	鳥取市の不登校児童生徒の出現率は全国的平均にくらべ同じかやや高い傾向にある。したがって学校不適応の解消を目指す本事業は鳥取市の教育上重要な事業であり、不登校の未然防止と早期対応のための体制づくりに予算を確保し、しっかりと取り組んで頂きたい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	不登校となる児童生徒の発生率について、本市は全国平均を上回る状況となっており、本事業の重要性は高い。本事業の場合、活動量が多くなることは必ずしも事業の目標となる状況が改善することを意味しないため、事業効果の把握については注意が必要である。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	31		
事務事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	1 学校教育の充実を図りその質を高めます！【知を開く】	
	政策	(3) 信頼される教育環境の充実	
	推進施策	3. 教職員の多忙化を解消し教育の質の向上を目ざしながら、学校運営システムを充実させ、学校事務の効率化と学校間の事務の共同化を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	小中学校全児童生徒
意図 (どのような状態にするために)	小中学校におけるいじめ、不登校、暴力行為・非行といった問題行動等の諸問題に対しスクールソーシャルワーカーがコーディネーター役となり、教育と福祉に関係する諸機関と連携しながら、子どもや保護者に対して効果的な支援を行う。
手段 (どうするのか)	学校と協働し、こどもの問題の要因を改善し、子どもの教育を保障する方策を考えたり、環境を調整したりする。 学校教育課にスクールソーシャルワーカーを配置し、学校や関係機関との連絡調整を行う。 学校や関係機関と情報を共有し、支援会議等に参加して助言する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	学校教育課にスクールソーシャルワーカーを5人配置する。	学校教育課にスクールソーシャルワーカーを6人配置する。	学校教育課にスクールソーシャルワーカーを7人配置する。	学校教育課にスクールソーシャルワーカーを8人配置する。	学校教育課にスクールソーシャルワーカーを9人配置する。	
	年度別実績	スクールソーシャルワーカーを5人配置。 学校訪問回数 226 家庭へ 8 諸機関 153 ケース会議出席 85	スクールソーシャルワーカーを5人配置。 学校訪問回数 25 家庭へ 1 諸機関 18 ケース会議出席 11				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	5,240	7,076	0	0	0	
	直接経費 A	5,240	7,076	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	3,493	4,717			
		地方債	0	0			
		その他	0	0			
一般財源	1,747	2,359					
人件費 B	0	0					
職員数の内訳	正規職員	0.00	0.00				
	嘱託職員	5.00	5.00				
	臨時職員	0.00	0.00				

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	小中学校におけるいじめ、不登校、暴力行為、非行といった問題行動等の諸問題に対しスクールソーシャルワーカーがコーディネーター役となり、教育と福祉に関係する諸機関と連携しながら、子どもや保護者に対応し、効果的な支援を行う。 具体的には、関係機関とのネットワークの構築、学校内におけるチーム体制の支援、保護者、教職員等に対する支援、相談・情報提供、要対協や支援会議等への積極的参加など。
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	スクールソーシャルワーカー配置人数	人	目標	5	6	7	8	9
				実績	5	5			
	(指標の説明)								
	2		目標						
		実績							
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	スクールソーシャルワーカー配置人数	人	100%	83%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	本市が抱えている教育課題である「学校不適応の解消」に向けてのスクールソーシャルワーカーの役割は重要であると認識している。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	支援会議や学校訪問要請等、学校からのニーズは年々上がっている。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	学校からのニーズも上がっている。スクールソーシャルワーカーの増員を望む上で、資源の拡充も求められる。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	全ての小中学校から報告される情報を元に、学校に出向いている。中には、継続して介入する場合もある。また、全ての児童生徒を対象としている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	<p>子どもを取り巻く環境の急激な変化が、不登校等の学校不適応問題に大きく影響している。背景には、貧困等の問題も複雑に絡み合っているケースもある。実態把握・アセスメント等を通して、未然防止にも力を入れていきたい。</p> <p>スクールソーシャルワーカーの働きは、欠かすことの出来ない、学校支援である。</p>	
今後の課題・方向性	<p>国が、「スクールソーシャルワーカーを全中学校に配置する。」という考えの中、学校からのニーズも上がっている。学校からの相談事案に対して、福祉の専門的知識や経験を生かして関係機関との連携に大きく貢献している。今後、事業の積極的な拡充が必要であるとする。</p>	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	<p>学校内だけで解決できないいじめ、不登校、暴力行為・非行などの問題に対応し、外部諸機関と連携して解決を図るスクールソーシャルワーカーの存在は最近とくに重要性を増している。スクールソーシャルワーカー5人で市内の全ての学校に対応するのは無理があり、計画通り増員していく必要がある。</p>
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	<p>事業の必要性が強いことは言うまでもないが、本事業の有効性や課題を明らかにするためには学校からのニーズではなく結果に対する事業効果についての評価が実施されることが望ましい。</p> <p>今後拡大が見込まれる事業である反面、スクールソーシャルワーカーには一定の専門性が求められるため、人材の育成や確保に向けた取り組みが求められる。</p>
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	35		
事務事業名	「地域の宝」研究事業費	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます!【徳を啓く】	
	政策	(1) ふるさと愛を育む教育の推進	
	推進施策	1. 本市の持つ豊かな自然、産業、歴史、芸術、文化財等の地域資源を活用し、ふるさとに対する理解をひらき、“ふるさとを思い 志をもつ子”を育てます。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	小・中・義務教育学校
意図 (どのような状態にするために)	道徳の時間に多様で魅力的な教材・資料が用いられるよう、鳥取市小中学校道徳郷土資料集『鳥取市の志』を作成し、活用を進めているところである。道徳の授業改善や教師の郷土理解を進めるためにも、郷土の人物資料を作成・活用する学校を支援し、児童生徒のふるさとを大切に思う心や人生を切り開く強い志を育成していきたい。
手段 (どうするのか)	郷土資料作成に取り組む小・中及び義務教育学校を募集し、消耗品費の支援を行う。指定校は、「郷土資料」と「指導案(略案)」「実践事例」を作成する。H25年度・28年度に『鳥取市の志』を作成し、各学校に配布している。平成32年度には、10程度の郷土資料・指導案等を冊子にまとめ、郷土資料集(第3編)を作成する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	指定校にて郷土の人物資料を作成・活用	指定校にて郷土の人物資料を作成・活用	指定校にて郷土の人物資料を作成・活用	指定校にて郷土の人物資料を作成・活用	指定校にて郷土の人物資料を作成・活用	
	年度別実績	小学校4校、中学校1校で実施	小学校2校、中学校1校で実施				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	7,479	7,939	0	0	0	
	直接経費 A	169	439	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	169	439					
人件費 B	7,310	7,500					
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	道徳の授業改善や教師の郷土理解を進めるために、指定校は「郷土資料」と「指導案(略案)」「実践事例」を作成。作成された資料は、平成32年度作成予定の『鳥取の志 第三編』の資料として扱う。
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	作成資料数	部	目標	5	3	3	3	3
				実績	5	3			
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	作成資料数	部	100%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	目的が明確であり妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	各校で資料作成に向けて計画的な取り組みができており、有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	各校の地域性を活かした資料作成ができており、効率的である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	各校に同等に経費が配分され、公平である。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	指定校は、作成資料で扱う地域の人物について参考文献を読んだり、聞き取り調査をしたりと、教師自身が地域を知る機会になっている。作成資料を道徳の年間指導計画に組み込み、他教科とも関連させながら活用し、ふるさと愛（地域愛）を育む道徳教育を推進している。	
今後の課題・方向性	今後も指定校の希望を募り、新たな郷土資料を作成し、道徳教育の推進に活用してもらう。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	指定校で作られた郷土の人物資料を編集委員会でとりまとめ冊子化し、それを小中学校の道徳の時間に活用してもらおうという事業で、郷土が生んだ素晴らしい人物を認識し、郷土愛を育むのが目的である。どの人物に着目するかは活用する側の自由であるが、単に作りっぱなしではなく、どの人物の生き様が児童生徒の心にどのように伝わり影響するかをきちんと検証し内容を改善していく必要がある。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	地域に教材となる題材を求めることは「郷土愛を醸成」する上で意義あることと思われるが、各校区ごとになれば題材も限られることも予想される。本来の教科の教育効果を優先し、各学校では無理のない範囲で対応した方がよいのではないかと。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	38		
事務事業名	人権教育推進事業費（携帯インターネット教育啓発推進事業費）	所属名	学校教育課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます！【徳を啓く】	
	政策	(1) ふるさと愛を育む教育の推進	
	推進施策	3. 様々な学びや体験を通して、自分をとりまく人々への感謝や敬愛、命の大切さや善悪の判断などの豊かな心を育むとともに、人を大切にする人権教育の充実を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣するための謝金補助を行う。
意図 (どのような状態にするために)	小中学校でスマートフォン、ゲーム機等の使い方やマナーを啓発教育し、適正な使用やインターネット上でのマナーを身につける。
手段 (どうするのか)	携帯インターネット教育啓発推進事業を実施する際の経費は、講師謝金補助として、各小・中学校に10,000円分を配分する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	①教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣するための謝金補助を行う。	①教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣するための謝金補助を行う。	①教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣するための謝金補助を行う。	①教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣するための謝金補助を行う。	①教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣するための謝金補助を行う。	
	年度別実績	①教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣するための謝金補助を（23回）行った。	①教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣するための謝金補助を（27回）行った。				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	7,540	7,770	0	0	0	
	直接経費 A	230	270	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	230	270					
人件費 B	7,310	7,500					
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	近年のスマートフォン、インターネット機能を持つゲーム機、音楽プレーヤー等の急速な普及に伴い、高い利便性を得る一方で児童生徒の長時間利用による生活習慣の乱れや不適正な利用による「ネット被害」やSNS（ソーシャルネットワークサービス）によるトラブルなど情報化に伴う新たな問題が発生している。また、インターネットを使いたいじめも問題となっており、平成25年9月に施行された「いじめ防止対策推進法」において、インターネットを通じて行われるいじめに対する対策の推進を図ることが示され、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、効果的に対処することができるよう啓発活動を行うことが求められている。
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	専門家による研修回数等	回	目標	30	30	30	30	30
				実績	23	27			
	(指標の説明)								
	2		目標						
		実績							
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	専門家による研修回数等	回	77%	90%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	市内の各小・中学校において、児童・生徒及び保護者、職員を対象に情報モラルに関する専門家による研修等を行う。インターネット等とのつきあい方を学ぶことで情報モラル教育を推進し、児童生徒がトラブルに巻き込まれる可能性のある行為やいじめ等につながる行為を未然に防ぐことに繋がる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	派遣回数は、平成27年度17回、平成28年度23回、平成29年度27回と、年々増加しており、学校のニーズも高まってきている。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	今後、SNS等によるトラブル等、ますます携帯インターネット教育の充実が求められる中、教職員、保護者、児童生徒の研修を実施する際、専門家を派遣する仕組みは必要である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	全校を対象としており、過去、希望校には全て専門家を派遣することができている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	各学校でスマートフォン、ゲーム機等の使い方やマナーを啓発教育したり、適正な使用やインターネット上でのマナーを身につけたりするために、活用を啓発していくとともに、教職員対象研修の必要性もあると考えている。	
今後の課題・方向性	インターネットに関わる「ネット被害」やSNSによるトラブル、いじめなどの問題は年々増加する傾向にあり、その内容も複雑化、深刻化している。学校における情報モラル教育は大変重要になっているが、次々に出てくる情報機器や情報ツールについて教職員が十分に対応することは困難であり、課題でもある。今後も専門機関との連携を継続しつつ、教職員の専門研修なども検討していきたい。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	鳥取県在住の情報モラル教育の専門家を小中学校に招き、児童・生徒、保護者、職員を対象に研修を行う事業である。一般的にモラル教育は一度きりでは効果がなく、少人数を対象に繰り返すのが効果が高いといわれている。一方、普通の情報教育も教員が学活などで通常行っているとのことである。専門家による研修で教員が知識や情報を収集し、それを各教室で児童生徒に繰り返し行う方法、年に1度は専門家を呼んで、児童・生徒、保護者、職員で聞く方法など、どの方法の効果が高いか検討する必要がある。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	児童生徒のインターネット環境への接触が増えるなかで、ネットリテラシーを醸成することの必要性は高い。人権教育としての趣旨から外れないよう留意されているが、より広い見地から本事業の目的と捉えることもできよう。インターネットに起因するトラブルの予防や改善への本事業の効果に近づき得るような評価が行われることを期待したい。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	40	事務事業名	生涯学習講座推進事業	所属名	生涯学習・スポーツ課
-------	----	-------	------------	-----	------------

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます!【徳を啓く】	
	政策	(2) 生涯にわたり心豊かに学び育つことができる環境の充実	
	推進施策	1. 市民が自発的に、自由に学ぶことのできる多様な学習機会や情報の提供の充実を図ることで、生涯学習社会の実現を旨とします。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	市民
意図 (どのような状態にするために)	いつまでも学び続けることができる生涯学習社会の実現
手段 (どうするのか)	一人ひとりのニーズに対応した多様な学習機会の充実を図る

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	<ul style="list-style-type: none"> ・尚徳大学の開催 ・高齢者人材活用事業 ・市民大学の開催 (H28年度は別事業として開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・尚徳大学の開催 ・高齢者人材活用事業 ・市民大学の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・尚徳大学の開催 ・高齢者人材活用事業 ・市民大学の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・尚徳大学の開催 ・高齢者人材活用事業 ・市民大学の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・尚徳大学の開催 ・高齢者人材活用事業 ・市民大学の開催 	
	年度別実績	<ul style="list-style-type: none"> ・尚徳大学の開催数 開催数126回 参加者数6,794人 ・高齢者人材活用事業 開催数6件583人 (・市民大学 開催数30回 参加者数693人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・尚徳大学 開催数126回 参加者数6,236人 ・高齢者人材活用事業 開催数8件765人 ・市民大学 開催数30回 参加者数886人 				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	2,436	8,356	0	0	0	
	直接経費A	1,705	6,856	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	1,705	6,856					
人件費B	731	1,500					
職員数の内訳	正規職員	0.10	0.20				
	嘱託職員	1.00	0.00				
	臨時職員	0.00	0.00				

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>尚徳大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会参加及び受講生間の交流を促し、生きがいを促進する ・地域で活躍する活力ある高齢者層を創出する ・開催講座 合同学習および8つの専門コース(書道・彫刻・絵画・民芸・文芸・社会・健康・郷土) <p>人材活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた知識、技能を有する地域人材を募り、市民の主体的な学習活動を支える講師あるいは助言者として活用する。 <p>市民大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が「いつでも、どこでも、だれでも、だれとでも、何でも、いつまでも」学習できる環境の整備を目的とする。 ・開催講座 前期と後期に各3講座ずつ開催
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	尚徳大学受講者の満足度	%	目標	80	85	90	90	90
				実績	77.4	79.3			
	(指標の説明) 受講者アンケート調査で中程度の評価より高い回答をした受講者の割合								
	2	市民大学の延べ参加者数	人	目標	800	800	900	1,000	1,000
実績				693	886				
(指標の説明) 年間の延べ人数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	尚徳大学受講者の満足度	%	97%	93%			
	2	市民大学の延べ参加者数	人	87%	111%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	尚徳大学・高齢者人材活用事業については、高齢者の生きがいづくりや社会への知識・技術の還元による知識の循環型社会の構築を目的として開催されており、高齢社会であることを考慮し、妥当である。市民大学についても、心豊かな生活を送る上で必要な生涯学習の場として提供されており、妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	尚徳大学・市民大学については個人の興味関心にあわせて選択して受講できるように配慮されており、有効である。高齢者人材活用事業は、高齢者が培ってこられた知識・技術を社会に還元していただくに当たり講座を開催する場の提供ができるための仕組みとして有効である。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	1カ所で大人数を対象として講座を開催しており、効率的である。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	尚徳大学はその目的に照らし、鳥取市在住の概ね60歳以上の高齢者を対象に実施しており、公平である。市民大学は、講座を昼または夜に開催しており、より多くの方に受講できるように配慮していることから、公平である。高齢者人材活用事業は、幅広い地域で開催されるよう改善する必要がある。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	尚徳大学および市民大学については、両方とも計画どおりに実施されており、今後も必要性に応じて改善等を図りながら継続していく。高齢者人材活用事業は、平成29年度は平成28年度に比べ利用件数および参加者数が増加したものの、さらなる増加に向けて改善等を検討していく必要がある。	
今後の課題・方向性	尚徳大学については、多種多様な学習ニーズや社会情勢に対応した学習機会づくりを検討する。高齢者人材活用事業は活用件数の増加につなげるため、広報の強化を検討していく。市民大学については、尚徳大学と重複しない内容・時間、または重層的な内容など他の事業と差別化を図りながら、より効果的の事業となるよう実施する。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	尚徳大学ではバスを使って屋外に於ける講座に人気があるが、キャバや費用などの関係で人数制限しているとのことである。このことが尚徳大学受講者の満足度を下げている原因ならば、受講者の要望をできるだけかなえるために、受講料を若干上げたり、講座数を増やしたりすることで人数制限を緩和すべきである。受講者の要望にできるだけ応えてこそ尚徳大学の存在意義が高まるので。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	事業の効果に密接に関連する「受講者の満足度」で測られた評価が改善していることから事業の改善が伺われる。一方で、市民大学の運営が外部委託に切り替えられた結果として事業費が拡大していることについては、外部委託の在り方として疑問を抱かざるを得ない。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	43	所属名	生涯学習・スポーツ課
事務事業名	ろうあ成人学級開設費		

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	II	郷土愛を醸成し豊かな心を育みます!【徳を啓く】
	政策	(2)	生涯にわたり心豊かに学び育つことができる環境の充実
	推進施策	2.	市民が学んだ成果を、地域で生かしながら自己実現を図り、生きがいに満ちた暮らしができる地域づくりに貢献します。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	鳥取市に在住するろうあ者および協会員
意 図 (どのような状態 にするために)	現代社会生活に必要な知識技能の習得および社会参画の促進のため
手 段 (どうするのか)	原則、毎月第1日曜日で5月～翌年の3月までの間に12回講座を開講する

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	聴覚障がい者で構成される運営委員会を組織して、年間計画を立て事業を実施。社会動向に適応した講義の開催。	聴覚障がい者で構成される運営委員会を組織して、年間計画を立て事業を実施。社会動向に適応した講義の開催。	聴覚障がい者で構成される運営委員会を組織して、年間計画を立て事業を実施。社会動向に適応した講義の開催。	聴覚障がい者で構成される運営委員会を組織して、年間計画を立て事業を実施。社会動向に適応した講義の開催。	聴覚障がい者で構成される運営委員会を組織して、年間計画を立て事業を実施。社会動向に適応した講義の開催。	
	年度別実績	全12回。 延べ参加者数：336人	全12回。 延べ参加者数：419人				
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	1,843	1,881	0	0	0	
	直接経費 A	381	381	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	381	381					
人件費 B	1,462	1,500					
職員数の内訳	正規職員	0.20	0.20				
	嘱託職員	0.00	0.00				
	臨時職員	0.00	0.00				

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施に当たっては、鳥取市ろうあ協会に委託しており、委託料として年額381,000円を支払っている。 ・4月と翌年3月にろうあ者で構成される運営委員会を開催し、計画と振り返りを行っている。 ・運営委員会で決定された計画にもとづき、年12回の講座を開催している。 講座例) 時局講演、国際理解講座、しゃんしゃん祭り、社会見学、調理実習 等
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	ろうあ成人学級開催数	回	目標	12	12	12	12	12
				実績	12	12			
	(指標の説明)								
	2		目標						
		実績							
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	ろうあ成人学級開催数	回	100%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	健常者とろうあ者がともに生きる社会のため、ろうあ者の積極的な社会参画を促す講座の開催は妥当と考えられる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	時局講演・国際理解講座など社会動向に適応した講座を開催している他、地域行事（しゃんしゃん祭り）への参加や社会見学といった社会参画につながる講座も開催しており、有効と考えられる。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	ろうあ者自身が講座の計画や運営をしていることから効率的と考えられる。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	鳥取市に在住するろうあ者および協会員であれば誰でも参加できるため。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	今後も様々な事業を企画して学習してもらうことで、見聞を広めていただきたい。	
今後の課題・方向性	ろうあ者の積極的な社会参加という観点から、ろうあ者自身が主体となった事業計画を推進していく。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	ろうあ者だけの講座を年12回開催している事業である。そのうち数回は、一般向けの講演会に手話通訳者を加えるような講座を加えるなどし、開かれた会にした方が、ろうあ者の積極的な社会参加につながると思う。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	事業が長期にわたって継続してきたものであること、また、その始まりが聴覚障がいをもつ市民による自主的な取り組みであったことによる意義は理解できるが、現状、講座運営の事務局機能は行政が担っているとのことであり、一部を除いて一般向けの市民講座に手話通訳を付すことで代替しつつ実質的に充実させることも考えられるのではないかと。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	44	所属名	生涯学習・スポーツ課
事務事業名	子育て講座開設費		

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます!【徳を啓く】	
	政策	(2) 生涯にわたり心豊かに学び育つことができる環境の充実	
	推進施策	3. 地域の大人や子どもの保護者に自らの役割と責任の自覚を促し、人としての大切な生き方を共有して、子どもとともに“学び”“育つ”ことができる地域社会の形成につなげます。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	小学校・幼稚園等の保護者
意図 (どのような状態にするために)	家庭の教育力の向上を図るため
手段 (どうするのか)	家庭教育に関する学習機会を提供する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	①保護者に対する家庭教育の重要性を啓発する機会を整備する	①保護者に対する家庭教育の重要性を啓発する機会を整備する	①保護者に対する家庭教育の重要性を啓発する機会を整備する	①保護者に対する家庭教育の重要性を啓発する機会を整備する	①保護者に対する家庭教育の重要性を啓発する機会を整備する	
	年度別実績	①子育て・親育ち講座 開催数 小学校 44校 幼稚園・保育園 8園	①子育て・親育ち講座 開催数 小学校 44校 幼児期講座 6園				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	4,440	4,331	0	0	0	
	直接経費 A	2,247	2,081	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	1,494	1,372			
		地方債					
		その他					
一般財源	753	709					
人件費 B	2,193	2,250					
職員数の内訳	正規職員	0.30	0.30				
	嘱託職員	0.00	0.00				
	臨時職員	0.00	0.00				

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<ul style="list-style-type: none"> 国の補助事業「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」を受けて実施する。(補助率：国1/3、県1/3、市1/3) 市内の小学校・幼稚園等での「子育て・親育ち講座」を家庭教育支援チームが企画・調整し開設する。[例]新小学1年生(入学前)のための子育て講座、就学時検診等を活用した子育て親育ち講座、幼児期の子育て親育ち講座] 講座内容としては、基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人への思いやり、善悪の判断など基本的倫理観、社会的マナー、自制心や自立心など「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成する上で必要な事項を取り上げて、保護者の家庭での教育力向上を図る。
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	子育て・親育ち講座開催数	回	目標	50	50	51	52	53
				実績	52	50			
	(指標の説明) 講座開催数								
	2		目標						
		実績							
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	子育て・親育ち講座開催数	回	104%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	家庭教育は全ての教育の出発点であり、家庭に教育の基盤をしっかりと築くことがあらゆる教育の基盤として重要であることから、目的として妥当である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	全44小学校で開催されており、保護者アンケートからも家庭の教育力向上に資する事業となっている。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	事業運営に支障をきたさないよう地域の人材を活用した必要最小限の人員体制をとっており、その効果も家庭の教育力向上につながっている。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	全44小学校で開催されており、新1年生をもつ全保護者を対象に講座を開催しているため

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	より内容を充実したものになるよう見直しながら、今後も基礎的な資質や能力を育成するうえで必要な事項を取り上げ、保護者の家庭での教育力の向上を図る。保護者同士のつながりを生み、子育てに関する親の孤立を防止する取組を推進する。	
今後の課題・方向性	今後も基礎的な資質や能力を育成するうえで必要な事項を取り上げ、保護者の家庭での教育力の向上を図るとともに、県などの他機関と連携を図りながら、保護者同士のつながりを深めるなどして、親の孤立を防止する取組を推進する。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	子どもを育てる上での家庭教育の重要性から必要な事業と考える。アンケートからは、家庭の教育力向上に資する事業と保護者から判断されているようだが、アンケートによる感想的、主観的な検証だけでなく、例えば、鳥取市の不登校児童生徒数が減った、朝食抜きの児童生徒数が減ったなど、もう少し客観的な効果の指標があった方が良い。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	参加者を効果的に集めるための配慮など様々な工夫がされている。一方で、事業の評価を開催回数で測ることについては、「活動指標」である以上やむを得ないが、事業効果の把握という点は疑問が残る。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	50		
事務事業名	文化財調査費	所属名	文化財課

1. 基本情報

位基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます!【徳を啓く】	
	政策	(3) 歴史と文化が息づくふるさとの創生	
	推進施策	2. 伝統文化や歴史遺産に刻まれた先人たちの足跡に触れることで、地域への理解と絆を深め、郷土を愛する豊かな人間性を持った人材を育成します。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	埋蔵文化財を中心とする文化財
意図 (どのような状態にするために)	適切な状態で保存(記録保存を含む)し将来に伝える。
手段 (どうするのか)	調査を実施する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	埋蔵文化財が確認されている場所で計画されている各種開発事業と調整を図り、文化財保護に努める。	
	年度別実績	倭文所在遺跡 21.0㎡ 青谷上寺地遺跡 135.0㎡ 史跡鳥取藩主池田家墓所 30.2㎡ 湖山所在遺跡 63.0㎡ ほか 計10件 調査及び測量面積 13,370.3㎡	会下・郡家遺跡 123.5㎡ 下味野所在遺跡 63.0㎡ 海士所在遺跡 23.6㎡ 山根所在遺跡 110.5㎡ ほか計14件 481.9㎡				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	28,813	23,699	0	0	0	
	直接経費 A	21,503	16,199	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	11,734	5,623			
		地方債					
		その他					
一般財源	9,769	10,576					
人件費 B	7,310	7,500					
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員						
	臨時職員		1.00				

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>(1) 事業の概要 各種開発事業と調整を図るために調査を行い、文化財の保護に努めた。</p> <p>(2) 事業の成果 (調査場所) 会下・郡家遺跡 123.5㎡ 下味野所在遺跡 63.0㎡ 海士所在遺跡 23.6㎡ 山根所在遺跡 110.5㎡ ほか計14件 481.9㎡</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	発掘調査の件数	件	目標	5	5	5	5	5
				実績	10	14			
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	発掘調査の件数	件	200%	280%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	埋蔵文化財の保護のために不可欠である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	本事業により、埋蔵文化財の適切な保護が図られる。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	事業実施のためには現状程度の対応が最低限必要である。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	国民共有の財産である埋蔵文化財の保護が図られる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input checked="" type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	開発事業の状況によって必要になる事業であり、社会情勢に大きく左右され、事務局側で目標などを設定するのは困難である。	
今後の課題・方向性	公共事業のほかに民間開発に伴う問合わせ件数も増加傾向にあり、公共工事だけでなく民間開発にも対応できるよう体制を強化する必要がある。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	文化財は市の大事な宝でありきちんと調査保存し後世に伝えなければならない。様々な工事に伴う突発的な調査が発生することから、年度計画化したり予算化することが難しい事情は理解できるが、きちんと予算を確保し、適切な人材を調査に充てることを期待する。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	開発事業に伴って生じる事業であるため、事前の目標設定が困難との指摘があるが、人員や予算に限りがある中で、調査の対象や範囲が大きな遺跡が出現しうることも考えると、求められた案件の数に対しての調査の質を確保した上で完了した案件の比率で評価することも考えられるのではないかと。
--------	---

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	53		
事務事業名	美歎水源地保存整備事業	所属名	文化財課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅱ 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます!【徳を啓く】	
	政策	(3) 歴史と文化が息づくふるさとの創生	
	推進施策	2. 伝統文化や歴史遺産に刻まれた先人たちの足跡に触れることで、地域への理解と絆を深め、郷土を愛する豊かな人間性を持った人材を育成します。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	重要文化財旧美歎水源地水道施設
意図 (どのような状態にするために)	文化財として良好な状態で保存・活用し、地域資源としての価値を高める。
手段 (どうするのか)	建造物の保存修理と活用のための環境整備を実施する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	<ul style="list-style-type: none"> 修理工事 整備工事 特別公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 修理工事 整備工事 特別公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> オープニングイベントの実施 整備工事の実施 公開活用事業の実施 管理 	<ul style="list-style-type: none"> 公開活用事業の実施 管理 全国近代化遺産活用協議会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 公開活用事業の実施 管理 	
	年度別実績	<ul style="list-style-type: none"> 修理工事 整備工事 特別公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 修理工事 整備工事 特別公開の実施 				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	123,888	242,141	0	0	0	
	直接経費 A	118,771	236,891	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県	76,321	157,638			
		地方債					
		その他		63,811			
	一般財源	42,450	15,442				
人件費 B	5,117	5,250					
職員数の内訳	正規職員	0.70	0.70				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要</p> <p>旧美歎水源地水道施設は、鳥取市の水がめとして大正から昭和にかけて60年にわたって使用された水道施設で、かつての上水道施設のありようを伝える貴重な近代化遺産として、平成19年6月に国の重要文化財に指定された。これを受け「旧美歎水源地水道施設保存整備基本計画」を策定、この計画に基づき、平成20年度から長期的視点に立った保存整備を行っている。この事業の実施により、旧美歎水源地水道施設を市民の誇りとなる遺産として将来にわたって伝えていく。</p> <p>2 事業の成果</p> <p>平成29年度は</p> <p>(1) 国庫補助事業により、建造物保存修復工事・活用整備工事を実施(～29年度)</p> <p>(2) 利活用事業として特別公開を実施</p> <p>(3) 市民と専門家からなる保存整備検討委員会及び建造物保存修復検討部会を開催</p> <p>(4) 「全国近代化遺産活用連絡協議会」への参加</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	美敷水源地の見学者数	人	目標	300	250	1,000	4,000	3,500
				実績	350	400			
	(指標の説明) 冬期閉鎖期間(12月～2月)があり、年あたり公開月数は実質9ヶ月								
	2	美敷水源地の修理工事の進捗率	%	目標	80	90	100	-	-
実績				80	90				
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	美敷水源地の見学者数	人	117%	160%			
	2	美敷水源地の修理工事の進捗率	%	100%	100%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	国指定の重要文化財であり、所有者として市が主体的に整備・保存し、市民の活用に供する必要がある。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	システム全体が残る水道施設として全国的にも貴重な文化財だが、経年劣化が見られ、活用のためには保存修理の実施が不可欠である。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	他に類例のない文化財建造物の修理事業であり、文化庁・国内の専門家の協力のもと、効率的に事業は進んでいる。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	全国的に価値のある文化財として、整備・活用の効果は広範囲にわたる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	平成30年度10月オープンをめざして修理工事と活用整備を進め、円滑な事業の進捗を図る。 公開後は適正な公開活用を図る。	
今後の課題・方向性	保存整備基本計画に基づき、着実に事業を推進し、平成30年10月にオープンさせる(補助金は国1/2、県1/6)。 公開後の管理を地元中心で行うための組織を確立し、効率的な情報発信・活用の推進を図る。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	美敷水源地の整備が終わり今年10月27日にオープンした。今後、どのように情報発信し、活用するか。公開後は地元中心の管理となるが、市もしっかり支援ならびに指導することを期待したい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	計画に沿って整備が進められ、公開に向けた地域との連携が深められ、特別公開事業により市民に向けた情報提供も行われてきた。30年度で整備が完了し、以後は利活用と維持管理が中心となる。両者の適切なバランスや連携について、モデルとなる形が生み出されることを期待したい。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	58		
事務事業名	仁風閣美装化等事業費	所属名	文化財課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	II 郷土愛を醸成し豊かな心を育みます!【徳を啓く】	
	政策	(3) 歴史と文化が息づくふるさとの創生	
	推進施策	3. 情報発信を促進し、観光客など多くの人々が来訪する、歴史と文化の薫りに満ちた活力あるまちづくりを推進します。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	仁風閣の建物、園内、周辺地
意図 (どのような状態にするために)	広域的な観光振興に資するため、イメージアップや来館者の安全確保等を図る
手段 (どうするのか)	美装化や安全対策を行う

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画		・正門門柱修繕、正門鉄扉塗装、インターロッキング通路の補修、園内の排水対策・案内板修繕、雨樋の修繕 ・周辺地の石垣保全、生垣保全 ・備品購入				
	年度別実績		・正門門柱修繕、正門鉄扉塗装、インターロッキング通路の補修、園内の排水対策・案内板修繕、雨樋の修繕 ・周辺地の石垣保全、生垣保全 ・備品購入				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	0	6,642	0	0	0	
	直接経費 A	0	5,892	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県		2,768			
		地方債					
		その他					
一般財源		3,124					
人件費 B	0	750					
職員数の内訳	正規職員		0.10				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>(1) 事業の概要 広域的な観光振興に資するため、県東部地区の代表的な文化観光施設となっている仁風閣の建物、園内、周辺地の美装化や安全対策を行い、イメージアップや来館者の安全確保等を図る。</p> <p>(2) 事業の成果 ・正門門柱修繕、正門鉄扉塗装、インターロッキング通路の補修、園内の排水対策・案内板修繕、雨樋の修繕 ・周辺地の石垣保全、生垣保全</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	仁風閣・宝扇庵の入館・利用者	人	目標 実績	/	39,000			
		(指標の説明)				42,578			
	2	アンケート調査で仁風閣の印象を良いと回答した割合	%	目標 実績	/	80			
		(指標の説明)				85			

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	仁風閣・宝扇庵の入館・利用者	人	/	109%			
	2	アンケート調査で仁風閣の印象を良いと回答した割合	%	/	106%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	鳥取市を代表する文化財・文化観光資源であり、その魅力の維持は本市にとって必須である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	美しい仁風閣の姿を保つことができた。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	現時点で可能な適切な修繕であった。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	本市における代表的文化財であり、市民全体にとって重要である。また、国の指定文化財でもあり、国民共通の財産である。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	仁風閣の価値を維持し、広域観光に資するために必要な事業である。	
今後の課題・方向性	建物の劣化が進んでいるため、耐震改修及び大規模な文化財修理が必要な状態であり、計画的に実施していく。必要に応じて小規模な修繕は実施していく。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	今回は単年度の仁風閣の修繕で、次回の改修工事は35年度前後になるとのこと。次回は大規模な解体修理になると予想されることから事前に十分準備し計画的に進めることを望みたい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	30年度以降は「ひとまず終了」とされている一方で、今後の方向性は継続し「計画的に実施」するものとされている。中長期的な計画が示しうる状況にないことも考えられるが、評価に基づく方針と事業計画の修正が連動していないことは事業評価の仕組みとして問題と思われる。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	61	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	図書館情報管理システム処理費	所属名	中央図書館

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅱ	郷土愛を醸成し豊かな心を育みます！【徳を啓く】
	政策	(4)	魅力ある読書環境づくりの推進
	推進施策	1.	年齢や障がい等に関わらず、すべての市民が読書を通して、豊かな心や夢を育み、人づくりや地域づくりを推進します。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	図書館3館、コミュニティセンター図書室6室及び市立病院の利用者情報、所蔵資料に関する情報、予約・貸出状況等の管理
意 図 (どのような状態にするために)	図書館利用者情報などを適正に管理することで、市民に迅速、正確、公平な図書館サービスを提供し、利便性・効率性・経済性の向上を図る。
手 段 (どうするのか)	平成24年度に更新した図書館情報管理システムを適正に運用し、利用者情報、所蔵資料情報等の管理を行い、利用者自身がインターネットから本の予約、予約状況の確認、貸出の延長などを行えるようにするとともに、予約した本が正確・迅速に利用者へ貸出せるようにする。また、中央図書館においては、本の自動貸出機、自動返却機の運用により、利用者の利便性の向上を図る。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

内容	年度別計画	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		図書館コンピュータシステムの効果的な運用により、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図る。	図書館コンピュータシステムの効果的な運用により、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図る。	平成31年2月に図書館コンピュータシステムの更新を行う。	図書館コンピュータシステムの効果的な運用により、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図る。	図書館コンピュータシステムの効果的な運用により、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図る。
事業費	年度別実績	コンピュータシステムにより、図書館3館、図書室6室及び市立病院図書室を一体的な管理、運用を行った。メンテナンスの範囲でバージョンアップを行い、コンビニ受取サービスの機能の追加、読書記録を提供するなどサービスの向上を図った。	・コンピュータシステムにより図書館3館、図書室6室及び市立病院図書室を一体的に管理、運用を行い、効率的運用、利便性の向上を図った。 ・保守の範囲でバージョンアップを行った。 ・貸出冊数を10冊から15冊に変更。			
		区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)
	事業費(A+B)	32,707	29,697	0	0	0
	直接経費 A	29,052	27,501	0	0	0
直接経費の財源内訳	国・県					
	地方債					
	その他	65	65			
	一般財源	28,987	27,436			
	人件費 B	3,655	2,196			
職員数の内訳	正規職員	0.50	0.30			
	嘱託職員					
	臨時職員					

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	【事業の概要】 図書館3館、コミュニティセンター図書室6室、市立病院図書室を一体的に管理するため、図書館情報管理システムを運用した。これにより、図書館利用者情報などを適正に管理することで、市民等に迅速、正確、公平な図書館サービスを提供し、利便性・効率性・経済性の向上を図った。			
	【事業の成果】			
	27年度	28年度	29年度	
	蔵書冊数	640,534冊	656,730冊	665,643冊
	利用者登録数	62,856人	65,663人	67,865人
	個人貸出	889,184冊	839,356冊	872,287冊
	団体貸出	99,067冊	96,017冊	93,943冊
	予約受付	148,042件	149,521件	148,203冊
	中央図書館入館者数	394,674人	370,482人	365,552人
	決算額	28,963千円	28,790千円	27,501千円

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	セルフ利用率の拡大	%	目標	45	47	49	51	53
				実績	46	45.3			
	(指標の説明) 情報管理システム処理件数(貸出返却セルフ利用冊数/総貸出返却処理冊数)								
	2	個人貸出冊数	冊	目標	890,000	891,000	892,000	893,000	894,000
実績				839,356	872,287				
(指標の説明) 図書館情報管理システムによる本の個人貸出冊数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	セルフ利用率の拡大	%	102%	96%			
	2	個人貸出冊数	冊	94%	98%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	図書館情報管理システムは、多くの利用者の個人情報をも有し、適正に管理しなければならない。また、地域図書館、各図書室との一体的な運用を行うことにより、地域間格差の解消を図っている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	図書館情報管理システムは、今や図書館の管理運営に欠かせないものであり、資料管理、利用者管理等効率化が図られているとともに、利用者がインターネット上で資料予約、読書記録を作成できるなど、利便性が高い。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	資料の登録管理、利用者の情報管理、貸出等の利用管理など効率化が図られており、費用対効果は高い。保守料の範囲でバージョンアップを行っており、常に改善しながら最新の環境で運用している。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	図書館情報管理システムと併せて搬送網を構築しており、市内のどの図書館、図書室からでも同様のサービスを受けることができ、地域間格差の解消につながっているため。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	図書館情報管理システムは、毎年度バージョンアップを行って常に進化しており、一層の利便性の向上や、効率化を図っている。	
今後の課題・方向性	30年度はシステムを更新する。ソフトは引き続き活用し、安定的にサービスの提供を行う。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	個人貸出冊数が毎年増えなくても維持されていれば、人口減少の中で努力していると見なすことができる。また、セルフ利用率はシステムを導入したからには増やすことが望ましいが、元々使う気のない図書館利用者に使わせることは難しいので、新たな図書館利用者に対してシステムの利用方法をきちんと教えることを着実に積み上げれば時間はかかるが利用率の向上につながると思う。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	セルフ利用率の拡大が想定した程にはすすんでおらず、また情報システムの付帯機能についても期待されたほど利用は広まっていないようである。特に、セルフ利用率の向上は他の業務を充実させるために必要な要素となっているため、改善に向けた取り組みが期待される。
--------	---

自己点検・評価シート

整理No.	62	鳥取市教育振興基本計画	
事務事業名	地域社会教育活動総合事業費	所属名	中央図書館

1. 基本情報

位 基 教 置 本 育 づ 計 振 け 画 興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	II	郷土愛を醸成し豊かな心を育みます!【徳を啓く】
	政策	(4)	魅力ある読書環境づくりの推進
	推進施策	2.	本と人、人と人との様々な出会いの場をつくり、市民が集いにぎわい、つながり合う交流を促進し、更なる地域文化の創造を支援します。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	子どもから大人までの市民等及び読み聞かせ等のボランティア
意 図 (どのような状態にするために)	市民等が本に親しむ機会を得ることにより、幼い時期から読書の習慣を身につけ、自ら考え、行動するために必要な知識や情報を得て、自己実現を図るとともに、生涯にわたって心豊かな暮らしを送るため。また、地域文化の発展に寄与するため。
手 段 (どうするのか)	子どもの読書活動を推進するため、ブックスタート事業の協力、おはなし会等の事業の実施をするとともに、絵本の読み聞かせ等ボランティア養成講座の実施。また、一般向け講座の実施。事業の展開にあたっては、広報媒体を活用して積極的な周知を図る。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	お話し会や各種講座を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進するとともに、高齢者向けの講座「音読教室」を実施するなど読書活動の推進を図る。	お話し会や各種講座を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進するとともに、高齢者向けの講座「音読教室」を実施するなど読書活動の推進を図る。	お話し会や各種講座を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進するとともに、高齢者向けの講座「音読教室」を実施するなど読書活動の推進を図る。こども食堂への支援に取り組む。	お話し会や各種講座を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進するとともに、高齢者向けの講座「音読教室」を実施するなど読書活動の推進を図る。こども食堂への支援に取り組む。	お話し会や各種講座を中心とした生涯学習活動とボランティアなどの社会貢献を促進するとともに、高齢者向けの講座「音読教室」を実施するなど読書活動の推進を図る。こども食堂への支援に取り組む。	
	年度別実績	・おはなし会、おやこを対象にした講座の実施 ・ブックスタート事業支援・読み聞かせボランティア養成講座の実施・音読教室一般向け講座の実施・まちライブラリーの設置。	・おはなし会、親子を対象にした講座の実施 ・ブックスタート事業支援・読み聞かせボランティア養成講座の実施・音読教室一般向け講座の実施・まちライブラリーの設置。				
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	8,061	4,446	0	0	0	
	直接経費 A	751	696	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	751	696					
人件費 B	7,310	3,750					
職員数の内訳	正規職員	1.00	0.50				
	嘱託職員	2.00	1.00				
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	【事業の概要】 読書活動推進のための事業を実施 1 各図書館で毎週「おはなし会」等子ども対象の事業を実施 2 読み聞かせボランティア養成講座の実施 3 保健センターが行うブックスタート事業に協力 4 一般向けとして、文字・活字の日記念講演会、音読教室等の実施
	【事業の成果】 1 各種事業への参加者数が目標を上回るほど図書館を利用していただき、読書活動の推進につながった。 2 読み聞かせボランティア養成講座、講演会等において託児を実施し、子育て支援を行った。 3 ボランティア活動支援のため、図書館において行うおはなし会の読み聞かせ等のボランティア活動には、1回ごとに交通費程度の謝金を出し、ボランティアの負担軽減を図った。

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
活動指標	1	おはなし会、各種講座への参加者数	人	目標	4,982	5,007	5,032	5,057	5,082	
				実績	5,400	6,097				
	(指標の説明) おはなし会、読み聞かせボランティア養成講座等への参加者数									
	2	受講修了者(7割以上出席者)のボランティア活動実施率	%	目標	65	65.5	66	67	67	
実績				84	45.7					
(指標の説明) 受講修了者(7割以上出席者)のボランティア活動実施率(実施予定含む)										

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	おはなし会、各種講座への参加者数	人	108%	122%			
	2	受講修了者(7割以上出席者)のボランティア活動実施率	%	129%	70%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	生涯学習施設として、幼児から高齢者の知識や教養の習得を支援し、特に幼いころからの読書習慣を身につけるよう子どもの読書活動の推進を図り、もって、地域文化の発展に寄与する使命があるため。
事業の有効性	<input type="checkbox"/> 1. 有効である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	事業の実績として、参加者が増加しており、事業をとおして、多くの市民に図書館や本に親しんでもらうことができた。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	現代的な課題も考慮しながら各種講座、講演会などを開催しているとともに、地元の人材(ボランティア)や職員を講師として活用しているため。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	幼児から高齢者まで幅広い世代を対象とした事業を展開しており、広報についても市報をはじめケーブルテレビ、フェイスブックなども活用し、広く周知するよう取り組んでいる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	各事業でアンケートを実施し、その結果を踏まえながら改善、必要な事業を企画している。読み聞かせボランティア講座、各種講座で託児を行い、子育て世代が参加しやすい環境を創出した。	
今後の課題・方向性	幼いころから読書習慣を身につけるとともに、課題解決を必要とする市民の利用をいかに促進するかが課題。 子どもの読書活動を一層推進するためには、本が身近にある環境と手助けする人が重要。読み聞かせボランティア養成講座は受講しやすく、実践につながるように工夫をしていく。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	ボランティア養成講座受講修了者のボランティア活動実施率が平成28年度より平成29年度で60%近く下がってしまった原因を探る必要がある。受講生に子育て中のヒトが多かったのが原因ではないかという説明であったが、きちんとした原因調査が必要である。すぐには活動しなくても一先ず受講してもらい潜在的なボランティアをふやすこともありうるが、一度受講すれば何年後まで有効かどうかも気になることである。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	講座参加者の終了後のボランティア活動への参加率が低下した点については、子育て世代に向けた環境整備により受講者層が変化したためでは、との説明があった。指標値の大きな変動でもあり、対応が迫られる変化であるか、それとも一時的な変化にとどまるのか、今後の推移が注目される。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	69		
事務事業名	学校給食未納対策費	所属名	学校保健給食課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ 未来を創造する健やかな体を育みます!【体を拓く】	
	政策	(1) 子どもの健全な食生活の推進	
	推進施策	1. 栄養バランスのとれたおいしい給食を提供するとともに、地元食材を活用した献立を作成するなど、地産地消を推進し、子どもの心身の健康の保持増進を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	学校給食未納者
意 図 (どのような状態 にするために)	未納者の解消と学校給食会計の適切な運営
手 段 (どうするのか)	補助金交付による各給食センターの円滑運営 主に支払い督促申立て・差押命令申立て等法的措置等

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	継続分を含めた 法的措置 5件	継続分を含めた 法的措置 5件	継続分を含めた 法的措置 5件	継続分を含めた 法的措置 5件	継続分を含めた 法的措置 5件	
	年度別実績	法的措置 なし	法的措置 なし				
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	4,309	7,267	0	0	0	
	直接経費 A	2,116	5,017	0	0	0	
	直接経 費の財 源内訳	国・県		2,970			
		地方債					
		その他	533	830			
一般財源	1,583	1,217					
人件費 B	2,193	2,250					
職 員 数 の 内 訳	正規職員	0.30	0.30				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の 実施概要	学校給食費の未納対策については、学校給食費未納対策マニュアルを作成し、段階に応じた未納対策を行っている。最終的に学校給食費に未納の生じた学校給食センターには、学校給食センター未納補てん補助金を交付することにより、学校給食会計の円滑な運営を図っている。
---------------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	学校給食費の納付率	%	目標	98.50	98.50	99.00	99.00	99.00
				実績	98.06	98.06			
	(指標の説明)								
	2		目標						
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	学校給食費の納付率	%	100%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	学校給食会計の円滑な運営のため未納対策は必要である。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	学校給食会計の円滑な運営のため未納対策は必要である。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	どうしても徴収できない未納金のため補てん補助金を交付している。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	保護者負担の観点から公平性が求められる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	学校給食費未納額及び未納者を増加させないため、効果的な実施方法を検証しながら継続的に実施する。	
今後の課題・方向性	学校及び徴収担当課とも連携を図りながら、文書督促や家庭訪問等を行う。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	きちんと学校給食費を払っている保護者から見ると、未納補填補助金を給食センターに交付することは不公平に感じるのでは思う。しかしながら未納者解消に対して対策をきちんと立てている点や、教員の負担軽減、安全安心な給食の提供という点から致し方のない措置と考える。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	相当の事業費を要している反面、新規の未納者の発生率はすでに十分に低く抑制されているとのことであり、納付率の改善をはかることは困難が予想される。未払いの発生を予防できる児童手当からの天引きに対する理解が広まることを期待したい。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	70		
事務事業名	学校給食食物アレルギー対策事業	所属名	学校保健給食課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ	未来を創造する健やかな体を育みます！【体を拓く】
	政策	(1)	子どもの健全な食生活の推進
	推進施策	2.	学校給食施設・設備の充実や、食物アレルギー対応を推進し、安全で安心な学校給食の提供を図ります。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	食物アレルギーのある児童生徒に対する対応を実施する。
意 図 (どのような状態 にするために)	アレルギーに対する知識を深め、アレルギー対応に必要な調理業務を実施する。
手 段 (どうするのか)	アレルギーに関する講演会の開催、アレルギー対応が必要な児童生徒の調査、対応に必要な調理業務の委託などを行う。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	アレルギー原因（卵・乳）食材除去食・代替食の提供 講演会の実施	アレルギー原因（卵・乳）食材除去食・代替食の提供	アレルギー原因（卵・乳）食材除去食・代替食の提供	アレルギー原因（卵・乳）食材除去食・代替食の提供	アレルギー原因（卵・乳）食材除去食・代替食の提供	
	年度別実績	アレルギー原因（卵・乳）食材除去食・代替食の提供 講演会の実施	アレルギー原因（卵・乳）食材除去食・代替食の提供 研修会の実施				
事 業 費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	2,353	2,352	0	0	0	
	直接経費 A	160	102	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	160	102					
人件費 B	2,193	2,250					
職員数の内訳	正規職員	0.30	0.30				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーに関する研修会の開催 ・アレルギー対応が必要な児童生徒の調査を実施 ・アレルギー対応給食の調理業務を委託
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	アレルギー原因(卵・乳)食材除去食・代替食の提供	%	目標	100	100	100	100	100
				実績	100	100			
	(指標の説明)								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	アレルギー原因(卵・乳)食材除去食・代替食の提供	%	100%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	全ての児童生徒が給食時間を安全に、かつ、楽しんで過ごせるようにする。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	食物アレルギーのある児童生徒にアレルギー対応給食を提供する。
資源投入の効率性	<input type="checkbox"/> 1. 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	食物アレルギーのある児童生徒に対応した給食を提供することと併せて、アレルギーに対する知識を深める。
サービスの公平性	<input type="checkbox"/> 1. 公平である <input checked="" type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	食物アレルギーのある児童生徒に対応した給食を提供することで、全ての児童生徒が安全に給食時間を過ごすことができる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	概ね予定通り完了した。 今後は、検討委員会等を実施しアレルギー対応について詳細を見直す等の取り組みが必要と考える。	
今後の課題・方向性	アレルギー対応給食の実施上の諸課題について整理・検討を図る。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	アレルギー児童に対して安全安心な給食を提供するためには必要な措置である。平成29年度より平成30年度にはアレルギー児童は増えるとのこと。個々の児童のアレルギーの種類や程度など、現状と推移を市として今後もきちんと把握して頂きたい。
--------	--

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	食物アレルギーを引き起こす主要な食材に限定されるものの、必要とする児童生徒に学校給食の範囲で対応がされている。マニュアルの改訂など継続的な改善がはかられている。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	73	事務事業名	市民総スポーツ運動費	所属名	生涯学習・スポーツ課
-------	----	-------	------------	-----	------------

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅲ 未来を創造する健やかな体を育みます!【体を拓く】	
	政策	(2) すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興	
	推進施策	3. 年齢や障がい等に関わらず、すべての市民がいつでもスポーツに親しめるよう、各地域や各種団体のスポーツ推進人材を育成し、市民が主体的に活動できる環境の整備を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	小学生、市民
意図 (どのような状態にするために)	①障がい者スポーツへの市民の理解・関心を高め、障がい者スポーツの普及促進を図る。 ②学校体育施設を地域に開放することにより、より多くの市民がスポーツ活動を実施することを図る。
手段 (どうするのか)	①小学校陸上競技大会及び市民体育祭にパラリンピアンを招へいし、障がい者スポーツをPRする。 ②小学校の体育館を、地域に開放する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	・障がい者スポーツの普及促進 ・小学校体育施設の開放	・障がい者スポーツの普及促進 ・小学校体育施設の開放	・障がい者スポーツの普及促進 ・小学校体育施設の開放	・障がい者スポーツの普及促進 ・小学校体育施設の開放	・障がい者スポーツの普及促進 ・小学校体育施設の開放	
	年度別実績	小学校陸上競技大会 ・走り幅跳び、100m 市民体育祭陸上競技 ・車いす1500m 学校開放 ・小学校44校 ・中学校2校	小学校陸上競技大会 ・車いす800m 市民体育祭陸上競技 ・走り幅跳び、100m 学校開放 ・小学校44校 ・中学校2校				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	13,622	14,414	0	0	0	
	直接経費A	11,429	12,164	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	11,429	12,164					
人件費B	2,193	2,250					
職員数の内訳	正規職員	0.30	0.30				
	嘱託職員						
	臨時職員						

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1. 事業の目的 学校体育施設を地域に開放することにより、より多くの市民がスポーツ活動を実践する環境を整備する。 また、障がい者スポーツへの市民の理解・関心を高め、障がい者スポーツの普及・促進を図る。</p> <p>2. 事業内容 学校体育施設の開放事業として、各校区に管理指導員を置き、指導、管理、報告を行う。 小学校陸上競技大会及び市民体育祭へパラリンピアンを派遣する。</p>
-----------	--

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	パラリンピアン等の派遣回数	回	目標	2	2	2	2	2
				実績	2	3			
	(指標の説明) パラリンピアン等を各種大会に派遣								
	2				目標				
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	パラリンピアン等の派遣回数	回	100%	150%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	①障がい者スポーツの普及促進により、障がいのある方がより活動しやすい環境を作る。 ②学校の体育施設を地域に開放することにより、市民の健康維持に貢献する。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	①市民に障がい者スポーツの存在を知ってもらうことにより、障がい者スポーツの活動範囲が広がってくる。 ②住民の健康維持・促進に効果がある
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	①実際に見てもらうことで、障がい者スポーツの理解が進む。 ②地域が管理することにより、各地域に合った利用をすることができる。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	①障がい者が一般者と同じようにスポーツできる環境を整えることができる。 ②全小学校を開放することにより、公平性を保っている。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	①東京オリンピック・パラリンピックを契機に、障がい者がスポーツ活動できる環境を整えていく。 ②引き続き学校開放を行うことで、地域の健康維持・促進に寄与することができる。	
今後の課題・方向性	①継続して障がい者がスポーツ活動できる環境を広げていく。 ②市民が健康維持・管理をするために、普段使わない学校体育施設を地域に開放していく。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	障がい者スポーツへの市民の理解・関心を高めるための事業と、小学校体育施設を市民に開放する事業を併せた事業である。それぞれ重要ではあるが目的の異なる2つの事業を併せてひとつの事業にした理由が不明である。また、予算のほとんどが小学校体育施設を開放するための場所管理代なので、障がい者スポーツ事業が重要な事業であるにもかかわらず一方の付録的な事業に見られてしまうおそれがある。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	事業の大部分は小学校施設の地域への開放であるにも関わらず、事業規模や予算において限られたものであるパラリンピアン等の派遣事業を活動指標としていることは適切とは言い難い。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	75		
事務事業名	市民体育祭開催費	所属名	生涯学習・スポーツ課

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名称
	基本方針	Ⅲ 未来を創造する健やかな体を育みます!【体を拓く】	
	政策	(2) すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興	
	推進施策	3. 年齢や障がい等に関わらず、すべての市民がいつでもスポーツに親しめるよう、各地域や各種団体のスポーツ推進人材を育成し、市民が主体的に活動できる環境の整備を図ります。	

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	市内在住の全社会人
意図 (どのような状態にするために)	地域のつながりや一体感の醸成、活力のあるまちづくりに向けた市民総スポーツ運動の推進によって生涯スポーツの普及促進を図る。
手段 (どうするのか)	市内44の小学校区ごとにチームを組織し、対抗戦による種目別競技会を開催する。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内容	年度別計画	・市民体育祭の開催	・市民体育祭の開催	・市民体育祭の開催	・市民体育祭の開催	・市民体育祭の開催	
	年度別実績	・市民体育祭の開催 参加者述べ23,480人 ・種目別参加チーム 延べ463チーム	・市民体育祭の開催 参加者述べ23,314人 ・種目別参加チーム 延べ476チーム				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	9,362	10,738	0	0	0	
	直接経費 A	2,052	3,238	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他					
一般財源	2,052	3,238					
人件費 B	7,310	7,500					
職員数の内訳	正規職員	1.00	1.00				
	嘱託職員	0.00					
	臨時職員	0.00					

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1. 事業の概要 鳥取市民体育祭は、昭和33年に市制70周年記念事業として始まった。毎年4月中旬の予選から、10月中旬まで約6ヶ月間にわたって44の小学校区ごとに約19種目(オープン競技含む)の競技を行い、得点を競い合うもので、選手・役員・応援などに延べ約25,000人の市民が参加する全国でもあまり例を見ない本市最大のスポーツ行事である。</p> <p>2. 事業の効果 鳥取市の掲げる市民総スポーツ運動の中核となる事業であり、生涯スポーツの推進はもとより、小学校区対抗とすることで、地域の一体感の醸成、他地域との交流の場として寄与している。</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	市民体育祭参加人数	人	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
				実績	23,480	23,314			
	(指標の説明) 市民体育祭に参加する人数								
	2	各校区の延べ種目別参加チーム数	チーム	目標	528	528	528	528	528
実績				463	476				
(指標の説明) 各校区の参加種目の合計(全校区が全種目に参加した場合、660種目の8割)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	市民体育祭参加人数	人	94%	93%			
	2	各校区の延べ種目別参加チーム数	チーム	88%	90%			

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	市民総スポーツ運動の中核事業として、毎年多くの市民に参加いただいている。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	生涯スポーツの推進や、世代間・地域間交流に有効であり、活力のあるまちづくりに寄与している。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	各種目協会等への委託により、円滑な運営体制が整っている。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市全域の校区を対象に開催しており、公平といえる。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 1. 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input checked="" type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	市民総スポーツ運動の中核となっている事業であり、生涯スポーツや市民交流の推進の場となっている。	
今後の課題・方向性	参加者のニーズに合わせ、競技の実施方法等に改善を加えながら継続実施していく。開催種目等に関しては、地域体育会等の意見を反映し、より多くの校区・市民が参加できるように随時見直しを行う。また、競技への参加者だけでなく「見る」、「支える」人々の増加にも努めていく。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	鳥取市民が高齢化していることを考慮すると参加者数や参加チーム数ともそれなりの数を達成していると判断する。若者の参加を促すために参加資格を撤廃したりして工夫をしているが、参加者の年齢構成などの実態を把握し、対策の効果などをきちんと検証すべきである。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	競技者の世代交代が進んでいないことが課題の一つとして認識されていたが、高校生が参加できる種目や比較的若い世代が取り組みやすい種目を導入するなど、改善に向けた取り組みが行われていることは評価できる。
--------	--

自己点検・評価シート

鳥取市教育振興基本計画

整理No.	78	所属名	生涯学習・スポーツ課
事務事業名	体育施設管理費		

1. 基本情報

位基教 置本育 づ計振 け画興	体系区分	コード	名 称
	基本方針	Ⅲ	未来を創造する健やかな体を育みます！【体を拓く】
	政策	(2)	すべての市民がいつでも親しむことのできるスポーツ活動の振興
	推進施策	3.	年齢や障がい等に関わらず、すべての市民がいつでもスポーツに親しめるよう、各地域や各種団体のスポーツ推進人材を育成し、市民が主体的に活動できる環境の整備を図ります。

2. 事業目的【PLAN】

対 象 (何を、誰を)	市民全般
意 図 (どのような状態 にするために)	市民サービスの向上を図る
手 段 (どうするのか)	民間の活力を利用した管理運営の導入

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
内 容	年度別計画	指定管理者制度導入による施設管理運営	指定管理者制度導入による施設管理運営	指定管理者制度導入による施設管理運営	指定管理者制度導入による施設管理運営	指定管理者制度導入による施設管理運営	
	年度別実績	<ul style="list-style-type: none"> 市民体育館 市民プール 千代テニス場 城北テニス場 鳥取市武道館 鳥取市営サッカー場 鳥取市B&G海洋センター 若葉台スポーツセンター 鳥取市弓道場 	<ul style="list-style-type: none"> 市民体育館 市民プール 千代テニス場 城北テニス場 鳥取市武道館 鳥取市営サッカー場 鳥取市B&G海洋センター 若葉台スポーツセンター 鳥取市弓道場 				
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	
	事業費(A+B)	149,962	154,786	0	0	0	
	直接経費 A	138,997	139,786	0	0	0	
	直接経費の財源内訳	国・県					
		地方債					
		その他	565	496			
	一般財源	138,432	139,290				
人件費 B	10,965	15,000					
職員数の内訳	正規職員	1.50	2.00				
	嘱託職員	0.00	0.00				
	臨時職員	0.00	0.00				

4. 平成29年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>市民体育館、市民プール、千代テニス場、城北テニス場、鳥取市武道館、鳥取市営サッカー場バードスタジアム、鳥取市B&G海洋センター、若葉台スポーツセンター、弓道場を指定管理施設として、民間の活力を利用した管理運営を行い市民サービスの向上を図る。</p> <p>指定管理者制度開始年度：平成18年度</p>
-----------	---

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・DO】

		指標名	単位	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
活動指標	1	指定管理者制度導入施設	施設	目標	9	9	27	26	25
				実績	9	9			
	(指標の説明) 鳥取地域において市内、県内外に幅広く利用されている施設数と指定管理者制度導入済施設数								
	2			目標					
実績									
(指標の説明)									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
指標達成率	1	指定管理者制度導入施設	施設	100%	100%			
	2							

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	民間のアイデア、ノウハウを活用した施設管理運営により、市民サービスの向上
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	民間のアイデア、ノウハウを活用した施設管理運営により、個人利用だけでなく、企画事業の開催による市民がスポーツに触れる機会の増加
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	施設状況を把握し、利用者からの要望に対する柔軟な判断による施設利用や効率的、効果的な施設運営
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	市内を始め県内、県外の幅広い利用の施設運営

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	当面は上記体育施設の指定管理を継続しながら、経費削減とサービス向上を図る。平成30年度には新市域の総合体育館、B&G海洋センターについて新たに指定管理施設として運用を始めるが、その他の体育施設においても指定管理者制度の導入について継続して検討をする。	
今後の課題・方向性	鳥取地域のみではなく、市全域に範囲を広げて市域、県域等幅広く利用されている施設について指定管理者制度導入を検討、平成30年度に導入。 各施設において老朽化が進み、維持管理費の増加が見込まれる。大規模改修とならないよう計画的な維持管理を行う必要がある。 市全体のバランスを考えながら今後の施設のあり方を検討する必要がある。大規模改修、施設更新となった場合には、更なる民間の活力手法の検討や改修方法等を検討する必要がある。	

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	高齢化社会においては、高齢者の健康増進のためにもスポーツ施設を整備して運動機会を提供することが必要である。多くのスポーツ施設に指定管理者制度を導入することで経費削減とサービス向上がはかれることを期待したい。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	指定管理の対象となった施設については毎年、教育委員会による指定管理者のモニタリングが実施され、利用者による評価などの確認が行われているため、体育施設の管理に関するPDCAサイクルは確保されていると思われる。「活動指標」としてはやむを得ない面もあるが、指定管理の対象施設の数を指標とすることについては事業評価の有効性の観点から疑問を持たざるを得ない。
--------	--

V 学識経験者の意見（総評）

【中島廣光氏】

現在の鳥取市の教育振興基本計画が立てられたのは今から2年半前の平成28年4月のことである。3つの基本方針にそって今後5年間の推進施策が立てられ、その中にいくつかの事業が計画された。今回は78事業のうち25事業の2年目、29年度の事業評価を行い、そのうち17事業については昨年も同じ事業を評価した。また今回初めて評価した事業が8事業あった。前者の17事業については、昨年も評価した関係で内容や進捗など良く理解できた。後者の8事業については質問などをすることで理解を深めることができた。昨年は外部評価の対象で今回対象とならなかった事業が現在どのような状況であるのかを知りたかった。いずれにしろ、評価した25事業については大部分の事業が順調に進んでいることを確認できたので、今後の事業の進捗に期待したい。

昨年も評価した事業のうちで、「子育て講座開設費」について少し述べたい。この事業は小学校・幼稚園の保護者を対象に元校長先生などによる家庭教育の重要性を啓発するための講演会を開催する事業である。しつけ、読書習慣、学習習慣をはじめとする家庭教育が崩壊しつつある現状から必要な事業と考える。市教委の自己評価では、「ためになった」といった保護者のアンケート結果に基づいて事業の有効性ありと判定している。事後のアンケート調査は事業を改善する上で必要ではあるが、これはあくまで主観的なデータであり、もう一歩進んで例えば不登校生徒数が減る、朝食抜きの生徒数が減るなどもっと客観的なデータが加われば効果の評価精度が上がるものと思われる。このことは他の事業についても言える。例えば、「地域之宝」研究事業費では各校で資料作成に向けて計画的な取り組みができていることから有効と判定している。資料をつくるだけでなく、それが教育効果を上げるいい資料だったかどうかが重要であり、そのことを判断できるデータが得られるならばぜひ活用して頂きたい。

【石川真澄氏】

自己点検・評価の対象事業は多岐にわたる教育委員会の事業の一部に過ぎない。対象事業が選定される過程で一部が入れ替わるが、今年度の対象事業一覧を見ると、課題を抱えた児童生徒や学校を支援するための事業が重層的に展開されていることに気づく。問題の種類に応じて、また、学校や家庭に対して、複数の事業が実施されている。そのいずれにおいても学校や現場のニーズの高さ、対象となる児童生徒の増加が指摘されており、教育現場の抱える課題の深刻さを痛感させられた。予防として位置づけられた事業の効果に関する見通しは曖昧なものとならざるを得ず、事業の規模も限定的である。結果として次々に発生する課題に対して対応に追われている印象を受ける。児童生徒の成長をとりまく環境の改善は教育委員会のみで対応できるものではないが、可能な範囲で状況の改善を図ろうとする関係者の努力に敬意を表したい。

自己点検・評価は年数を重ねて定着していると思われるが、事業の改善に活用するため、事業の目的に対する効果や質的な改善を意識した評価を行っていることが看取できるのがみられる反面、計画された事業を計画されたとおりに実施したことで是としているのではないかとおもわれるものも増えているように思われる。書類上の形式的な評価ではなく、事業の改善に向けて資するツールとして活用されることを期待したい。